



殿ダム周辺地質資産 情報資料（電子原稿）



1. 鳥取平野の成り立ち 大地創生物語



鳥取平野 海進・海退 四物語



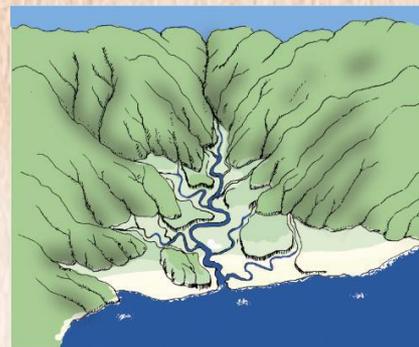
1. 鳥取平野の成り立ち 大地創生物語

鳥取平野 海進・海退 四物語

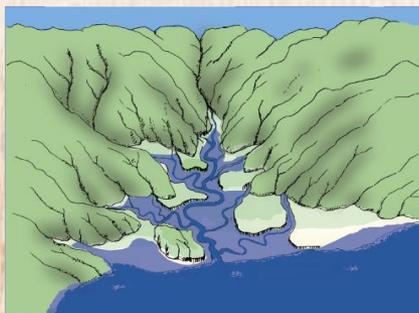
①湯山層の堆積と古砂丘
古代の鳥取平野（200万年前）



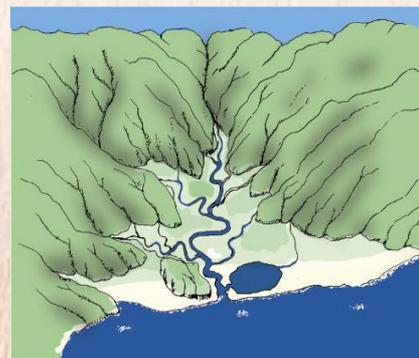
②砂丘の草原化
ウルム氷河期の鳥取平野（2万年）前）



③縄文人の生活
縄文海進時代の鳥取平野（6000年前）



④弥生人の生活
有史時代以降の鳥取平野（3000年前）



①湯山層の堆積と古砂丘 古代の鳥取平野（200万年前）

古代、鳥取平野は海でした。花崗岩などの岩が岬状に日本海に突出して、遠浅の大きな湾入を形成していました。湾内には多くの島々が点在し、砂を堆積させるのに好都合な環境が整っていました。この遠浅の大きな内湾を古鳥取湾と呼んでいます。

古鳥取湾には中国山地から砂礫が運び込まれ、湾内の埋め立てが進行していきました。これらの砂は次第に高まりを増し、相互につながって湾口部を塞ぐまでに発達していきました。この海底に堆積した砂層は模式地である福部町湯山の地名をとって「湯山層」と命名されています。

この湯山層を堆積させた海は、更新世末期に海水面が高まった下末吉海進（今から12万年前）と呼ばれる海で、現在より海水面が25～30mも高かったと考えられています。

この湯山層はついには水面上に顔を出して、その後は海岸に打運ばれるようになり、起伏をもった砂丘へと成長していきました。



②砂丘の草原化 ウルム氷河期の鳥取平野（2万年前）

その後地球は次第に寒冷化していきました。

地球全体が寒くなると、蒸発した海の水は雪となって降り積もりますが、この雪は夏になってもとけずに氷となって陸上に閉じ込められるようになります。

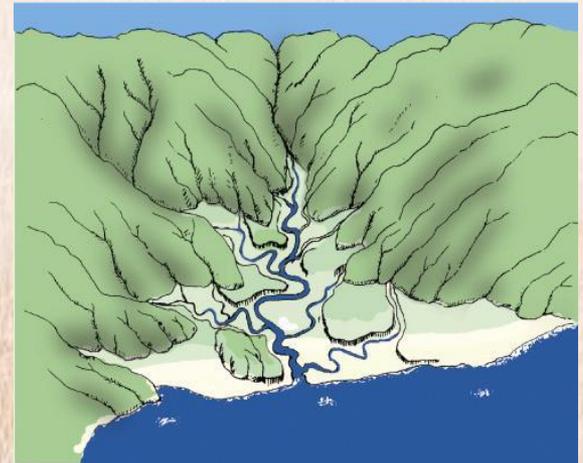
そのため海水面が次第に下がっていきます。

最も厳しい氷河期となった約2万年前（ウルム氷河期）には、日本海の海水面が80mほど低下したといわれ、鳥取砂丘付近では海岸線が10km以上も沖合に退いたといわれています。

千代川によって搬出された大量の砂が岬の先端や島に付着し、やがて湾を閉じるように古い砂丘が成長しました。さらにこの時期、日本列島の各地で大規模の火山活動（阿蘇・大山・アイラ火山等）があり、大量の火山灰が放出されて各地に厚く降り積もり、砂丘の砂はまったく移動しなくなります。

海岸線が10km以上も後退して砂の供給が絶たれた上に、降灰のため砂も移動しなくなってしまったため、砂丘及びその周辺には植物が繁茂し、広大な草原が出現したと推察されています。

大山の火山灰層に覆われてしまった砂丘は「古砂丘」と呼ばれています。



③縄文人の生活 縄文海進時代の鳥取平野（6000年前）

厳しかった氷河も1万年前頃から暖かくなり始めます。この暖かさは今から6～5千年ほど前に最も暖かくなりました。

このため、陸地に閉じ込められていた雪や氷がとけて、海水面が上昇してきました。

最も暖かくなったときには、現在の海水面より2～6mほど高まったといわれています。

この温暖化で拡大した海は縄文海進といわれ、鳥取砂丘付近は再び大きな内湾となり、この内湾は新鳥取湾と呼ばれています。

鳥取市丸山や一ツ山に見られる離水海食洞は、このときの激しい波浪の浸食によってできたものです。

また、鳥取平野の地下数メートルのところからは多数の貝化石が出土しています。

この内湾には新たに砂礫が運び込まれて埋め立てが進行するとともに、新しい砂丘を作るための準備が整えられていき、やがて内湾は埋積され、古砂丘の前面には徐々に砂が堆積しました。

砂丘には草木が繁茂して小型の動物が生活するようになり、内湾は良好の漁場となって縄文人が砂丘地に進出して生活するようになりました。

（鳥取砂丘の長者庭等）



④弥生人の生活 有史時代以降の鳥取平野（3000年前）

縄文時代の終わり頃から少しずつ寒くなってきます。今から2千年ほど前の弥生時代は冷涼期となり、海水面が再び低下しました。（海水面は2m前後下がった）

縄文期に拡大していた新鳥取湾は急速に小さくなっていきます。海水面が下がったことで、山地と平地の間に高低差が生じて山地の浸食が復活し、千代川により大量の砂礫が運び出されました。かつての内湾は急速に埋め立てられて平野が形成され、また、海に運び出された砂は海岸に打ち上げられて、再度砂丘が発達し、湖山池が海から切り離され潟湖となります。各地に新しい砂丘が次々と誕生し、古砂丘にこれらの砂丘が埋積されて、大砂丘へと成長していきました。

縄文人は、この急速に成長する砂丘に生活の場を奪われて砂丘地から撤退し、弥生人が砂丘背後の高台や潟周辺で生活するようになり、稲作中心の農耕生活を始めるようになっていきます。



離水海食洞を今に伝える 二洞



1. 鳥取平野の成り立ち 大地創生物語

離水海食洞を今に伝える 二洞

① 離水海食洞（丸山）

② 離水海食洞（一ツ山）

① 離水海食洞（丸山）

「離水海食洞」は海の波浪によって形成された高さ1メートル、幅0.6メートル、奥行18メートルの海食洞です。

縄文時代（約6千年前）に海水面が上昇した縄文海進によってこの洞窟が形成され、その後の海退によって陸化したと考えられています。

現在は海岸線から遠く離れた場所にあるため、かつての海岸線や鳥取平野形成の地史を今に伝える貴重な史料です。



② 離水海食洞（一ツ山）

鳥取砂丘東部の砂丘の中にある「一ツ山」の下部にも海食洞があります。これも砂丘の発達等で離水した洞窟です。



海進海退を今に伝える 三化石



1. 鳥取平野の成り立ち 大地創生物語

海進海退を今に伝える 三化石

①香合石 ②上地の貝化石 ③宇倍神社裏山の魚の化石

①香合石

三代寺・広西の丘陵地から産出される箱型の小さな石で、海進海退の作用によって自然が作り上げた、全国的にも類のない珍しい石です。

石の表面は黄鉄鉱で出来ていますが、内部は淡黄色の粘土を含んでいるため石を割って取り除くと、蓋付きの箱のようになります。5cm前後のマッチ箱のような四角柱や三角柱といった形状が仏前の香合（香盒）に似ているのでこの名がつけました。明治20年頃地元で発見され、その後餡（あん）石（いし）の呼び名で古物商の店頭を飾ったと言われていません。今日では採掘が困難を極め、幻の石となりつつあります。

②上地の貝化石

普含寺泥岩層といわれる約1500万年前の新生代第三紀の層から出土した貝の化石です。上地からは他にもイタヤガイやウニの化石が出土しており、太古は上地周辺も海の中であったことを物語っています。



③宇倍神社裏山の魚の化石

宇倍神社裏山の普含寺泥岩層からは、コノシロ、カタクチイワシ科、カレイ科などの魚の化石が見つかっています。普含寺泥岩層は約1500万年前の土層で、宇倍神社周辺においてもかつては海に覆われていた時代があったことがわかります。



多島海であった古鳥取湾



多島海であった古鳥取湾

- ①湾奥附近の島 面影山や大呂山
- ②湾の外側にある島々 鳥取砂丘の一ツ山・ニツ山・馬ノ背・伴山、
- ③湾の外側にある島々 賀露町背後の岩山、スクモ山

更新世末期（1～5万年前）の一時期には海水が増加して、現在の陸地は沈降海岸の形態となり、古鳥取湾とも呼ばれる大湾入がつくられました。

当時は沖積層の堆積もなかったので平野もできておらず、湾入はかなりの深さがあったのではないかと考えられています。

現在鳥取平野に散在する面影山や大呂山は湾奥附近の島であり、砂丘中の一ツ山・ニツ山・馬ノ背・伴山、賀露町背後の岩山、さらにスクモ山などは湾の外側にある島々で、沈降海外特有の多島海を形づくっていたと考えられます。



縄文時代の生活の痕跡 桂見遺跡と丸木舟



湖山池南東岸の桂見遺跡において、全国最大級の丸木舟が2艘発見されました。

全長は641 c m、最大幅70 c m、深さ10 c m規模の大型丸木舟で、縄文時代後期に

外洋航海用と物資運搬用として使用されたと考えられています。



白兔海岸



白兎海岸

[白兎海岸]

伝説「因幡の白兎」で知られているところで、白兎トンネルの手前に広がる広大な砂丘海岸は、夏季には、山陰地方有数の水のきれいな海水浴場としてにぎわいます。

付近には伝説の場所、気多前・淤岐ノ島・杖衝坂（恋坂）・恋島・身干山などがあって、景色の美しい海岸です。

伝説「因幡の白兎」に登場する「気多前」は海岸の西のはずれの海中に突き出した岬で、正木ヶ端あるいは気多ヶ崎ともいいます。この背後にあるのが高尾山で、兎が泣いていたところ。身干山はガマの穂綿を敷いて身体をなおした場所です。

水門は白兎神社のそばにある深さ一[㍓]、周囲一〇〇[㍓]ほどの池で、昔は内海池の流出口でした。

浜の西端には河原火砕岩層の海食崖と断層によって切り離された淤岐ノ島などがあります。島の周囲には波食棚が取り巻き、飛び石状になった棚はワニの背にたとえられます。

また「大きな袋を肩にかけ・・・」の歌詞で一般に親しまれてきた大黒様の歌は、鳥取出身の田村虎蔵の作曲によるもので、その詩を刻んだ歌碑が、淤岐ノ島を正面に見る海岸沿いに立てられています。



伝説「因幡の白兔」



伝説「因幡の白兔」

伝説「因幡の白兔」

昔、大国主命の兄弟が出雲国から因幡の八上姫をめとるため気多前にさしかかった時、一匹の白兔が皮をはがされて泣いていました。この兔は高草に住んでいましたが、洪水の時竹やぶの根に乗って海に流されました。

沖合一五〇^祀の淤岐ノ島に逃げましたが、いざ陸地に帰る時に、ワニをだまして戻ったため、その怒りにふれて赤裸にされてしまったというのです。

先に因幡に着いた八十神は、この兔の話聞いて、「塩水で身体を洗い、風に当たりながら高尾山に寝ていれば、もとどおりの身体になる」と教えて去りました。

B兔が教えられた通りにすると、前よりもいっそう痛みが激しくなっていました。

遅れてやってきた弟の大穴牟遲命（大国主命）が、ふたたび訳を聞いて、「すぐに水門に行って、真水で身体を洗い、ガマの穂にくるまればなおる」と教えた。白兔が言われるままにすると、元の美しい体になりました。



中国山地の特徴



1. 鳥取平野の成り立ち 大地創生物語

中国山地の特徴と古い火山だった「扇ノ山（おうぎのせん）」

中国山地は、標高1,000メートル以上の山岳が中国地方をほぼ東西に延々と伸び、12ある山系中その半数以上が鳥取南東部に集中しています。

中生代の火山岩類と花崗岩類第三紀層で構成された山地で、鳥取県と兵庫・岡山両県と接する県境の氷ノ山、後山、那岐山といった連峰は「因幡山山岳地帯」とも呼ばれています。

陸路で鳥取から県外に出るためには、必ずこの山地越えをすることが必要となっています。

「扇ノ山（おうぎのせん）」は、この中国山地の東列に位置する古い火山で、わずかに火山地形を残しており、妻鹿野付近と菅野には溶岩流が見られます。

また、広留野、河合谷高原のような原野が開け、袋川・八東川の浸食が進み、川には多くの滝がかかっています。



殿ダム周辺地域の地質



殿ダム周辺地域の地質

[殿ダム周辺地域の四地質構造]

- ①最も古い時代の岩石 鳥取花崗岩（中生代白亜絶後半から古第三紀初頭）
- ②凝灰岩や泥岩を主とする最も広い面積を占める 鳥取層群（新第三紀の初頭）
- ③沈降と火山活動で形成 照来（はるき）層群（中新世後期から鮮新世にかけて）
- ④大氷河が繰返し発達、海岸・河岸段丘が形成 扇ノ山安山岩類（第四紀）

- ①最も古い時代の岩石 鳥取花崗岩（中生代白亜絶後半から古第三紀初頭）

中生代白亜紀後半から古第三紀初頭にかけての大規模で複雑な花崗岩の進入（へいにゅう）活動は、中国地方全般の大底盤を形成しました。

最も遅い時期の岩体は鳥取花崗岩と呼ばれており、年代は5～6千万年とされ、最も広い面積を占めています。

鳥取花崗岩は国府町松尾・吉野周辺にも分布し、この地域の最も古い時代の岩石となっています。

- ②凝灰岩や泥岩を主とし、最も広い面積を占める 鳥取層群（新第三紀の初頭）

新第三紀の初頭、著しい沈降と海底火山を主とする火山活動期に入り、東北日本を中心とした日本海側には厚い海成層が堆積しました。

この時代はグリーンタフ時代といわれています。この時代、県内に広く堆積した地層である鳥取層群は、凝灰岩や泥岩を主とするもので、この地域では最も広い面積を占めています。



1. 鳥取平野の成り立ち 大地創生物語

殿ダム周辺地域の地質

③沈降と火山活動で形成 照来(はるき)層群 (中新世後期から鮮新世にかけて)

中新世後期から鮮新世にかけて全般的に隆起して陸域は拡大しましたが、部分的に急激な沈降が火山活動を伴いながら起こりました。この時代に形成された地層が、鳥取県東縁部から兵庫県北西部にかけて分布する照来(はるき)層群です。その後にも何回も火山活動が続き、その火山噴出物を鮮新世火山岩類と呼んでいます。

④大氷河が繰返し発達、海岸・河岸段丘が形成 扇ノ山安山岩類(第四紀)

第四紀は全世界的に大氷河が繰返し発達した時代で、海面の昇降に伴い海岸・河岸段丘が発達しました。

同時に火山活動も活発な時代で、現在の火山はほとんどの時代に形成されました。

扇ノ山・大山などの火山が形成され、沖積平野が成立しました。この時代の噴出溶岩を扇ノ山安山岩類と呼び、この地域では最も新しい(100万年未満前)岩石になります。

地質時代		地質層他			
先カンブリア時代	始生代	(地球上の最古の岩石) (地球上の最古の化石)			
	原生代	(日本最古の岩石)			
古生代	カンブリア紀	(日本最古の化石)			
	オルドビス紀				
	シルル紀				
	デボン紀				
	石炭紀	三郡変成岩類	角谷層	智頭層	
ペルム紀	八頭層		志谷層		
中生代	トリアス紀	斑禰岩類			
	ジュラ紀				
	白亜紀			中生代火山岩類	
新生代	三古紀第	久松山花崗岩			
		鳥取花崗岩			
		鳥取層群	八頭累層	郡家礫岩層	
	私郡累層		河原火山岩層	三三三 代 寺 火 砕 岩	
			雲山礫泥		岩 層 ト 寺
			円通寺 礫岩砂岩層		
	岩美累層		諸鹿礫岩層	火 砕 岩	
			普含寺泥岩層		
			小田安山岩層		
			円護寺火山岩層		
			荒金火砕岩層		
	照来層群		駒馳山砂岩泥岩層	火 砕 岩	
			歌長流紋岩層		
			湯谷礫岩層		
		春來泥岩層			
寺田安山岩					
因幡山礫層					
因幡山安山岩					
新鮮・更新群	霊石山玄武岩	火 砕 岩			
	扇ノ山火山				
	扇ノ山安山岩				
第四紀	更新世	高位段丘礫層	古鳥取湾の形成 砂丘・湖山池の完成 鳥取平野の完成		
		湯山砂層(古砂丘) 大山火山灰層			
	完新世	クロスナ新砂丘砂 "古海層" (沖積層)			

[鳥取層群の中新世魚類化石 (鳥取県立博物館)]

宮下魚類化石は1680万年前（中新世前期後半）の鳥取層群普含寺泥岩層から発見されました。発見された化石の種類から浅海～沿岸性の堆積環境が知られています。なかでも「トットリムカシギンポ」は浅い海に生息したイソギンポ科の新種で世界でも極めて珍しいものです。

[照来層群の昆虫化石 (おもしろ昆虫化石館)]

「おもしろ昆虫館」には小又川上流の海上出土の昆虫化石は新生代第三紀鮮新世（500～1800万年前）の照来層中の春来層から発見されたチョウなどの昆虫化石が多数収集展示されています。

[鹿野・吉岡断層]

① 鹿野断層

鳥取地震（1943年 M7.2）によって現われた長さ8km、東北東方向の活断層です。

② 吉岡断層

鳥取地震（1943年 M7.2）によって現われた長さ5km、東北東方向の断層です。



殿ダム周辺の巨石・巨岩



- ①大石神社の大石 ②足倉の大岩 ③アマンジャク岩
- ④シナイ文字石 ⑤宇部神社の双履石

①大石神社と大石

杉の木立の中にある祠の後ろに高さ2.5m、周囲26mの大石があり、この巨石の下から清水が湧き、境内に流れ出ています。祭神の御井神(みいのかみ)は、大国主神と八上比売の間に生まれた開拓神です。昔は自然崇拝の習慣があり巨大な石や泉の源流などを神聖視したことからこの地に神社を創建したものと思われ、この縁由によって大字名が大石となったといわれています。

②足倉の大岩

昭和の初め頃、松島岩吉という人が農作業をしていたところ、山の上から落ちてきたと伝えられています。殿ダムから神護に向かう道路左側に見ることができます。



③アマンジャク岩

岡益の東側の山、寺山と清水との境付近に、大きな岩が横たわっています。

むかし、アマンジャクという巨人が運んだのであろうという古い言い伝えがあり、「アマンジャク岩」と呼ばれています。

以前は、子供の欲しい女性がこの岩に祈れば、必ず願いがかなえられるということで、お祈りをする人があったそうです。

岩の大きさは縦六メートル、横二メートル、高さ二メートルもある平たい岩で、その一部に溝が掘られており、むかしの人が動かしたようすがうかがえます。

岡益の石堂や、梶山古墳に使われているのと同じ凝灰岩で、もしかしたら古墳などに使おうとして、途中で止めたものではないかと考えられています。



鳥取の巨人伝説

④シナイ文字石

旧今木神社の境内に、「虎」という漢字らしいものを始めとして、文字のようなものが数多く刻まれたなぞの石が祀ってある。古代文字の研究家によると、それらはイスラエルとエジプトの間のシナイ半島で発明されたシナイ文字だということで、地元ではシナイ文字石と呼んでいる。

シナイ文字は紀元前20世紀から紀元後6世紀ごろまで銅山の技術者達によって使われた文字で、伊福(いふ)吉部(きべ)徳足比売(とこたりひめ)の骨蔵器の青銅器鑄造と関連づけて考える研究者もいるが、文字の意味や伝播ルートなど、なぞの石の解明にはまだ多くの時間がかかりそうである。



⑤宇部神社の双履石

本殿の裏に小高い丘があります。『因幡志』はこれを亀金(かめかね)といい、『因伯紀要』は「亀金山」(かめかねやま)としています。

そしてこの丘の上に木柵に囲まれた二個の石があり「双履石」といわれています。

「宿禰因幡の国守たり神名帳頭注(本の上の余白にのせた説明書き)に風土記を引て曰く仁徳天皇五十五年春三月武内宿爾歳三百六十余歳稻葉国に下向亀金に双履残隠所不知(ふたつのくつをのこし、かくれますところをしらず)と今当社の後阜(後の丘)を亀金山という方五尺ばかり石垣を築くこれ雙履(双履)の残跡なりと伝ふ」とあります。



鳥取の巨人伝説



1. 鳥取平野の成り立ち 大地創生物語

鳥取の巨人伝説 アマンジャクと大多羅大明神

鳥取地方では、アマンジャクの巨人伝説があります。

鳥取市の雲山や大路山は、弘法大師が八頭に千体の仏像をまつろうとしたのに逆らって、アマンジャクが打ち捨てた土が山になったのだらうといわれています。

また、国府町にある今木山と甕山は、昔、岡益にある太田神社にまつられていた大多羅大明神が、今木山と甕山をモッコで一緒に運ぶ途中、この地で、担い棒が折れたために、ここに置き去りにしたという伝説もあります。きっとこの大多羅大明神も巨人であったのでしよう。

この大多羅大明神やアマンジャクは、外国の神様か、それとも特別な仕事をしていた人をいったのかもしれませんが。



鳥取平野と千代川



① 沖積平野としての鳥取平野

この200万年の間に、現在私たちが住む土地の地形がほぼ形作られました。

千代川の歴史も例外ではなく、この時間の流れの中、中国山地の山々の肌をけずり取り、谷を刻み、運んだ土砂を河口近くにためて、鳥取平野という沖積平野を生成しました。

② 微高地や自然堤防と千代川の乱流

千代川流域の沖積平野と川の変遷には多くの因果関係があります。

川は流域から多量の土砂を運搬し、扇状地を造り、天井川となります。

そしてここから脱落した川筋は転位して新川となり、土砂を伴った水が平野の真ん中をまんべんなく流れていきます。

流域に見ることのできる微高地や自然堤防は海進期の堆積地であったり、かつて流れていた古川筋の姿なのです。

長い年月をかけて、鳥取平野の千代川の流れは変遷を繰り返してきました。

現在流れている千代川は、自然河川から綿々と人々の力により固定化された人工河川であるともいえます。



2. 鳥取平野と鳥取砂丘



鳥取砂丘（浜坂砂丘）の成り立ち



2. 鳥取平野と鳥取砂丘

鳥取砂丘（浜坂砂丘）の成り立ち

鳥取市の北、日本海に臨む海岸一帯が鳥取砂丘です。

砂丘の範囲は、東が岩美郡の駟馳山（314m）の麓から始まって、海士・浜場山・多鯨ヶ池・浜坂・加露・湖山・白兔にいたる、東西約16km、南北2km余りの幅で広がり、日本ばなれした雄大な景観を呈しています。

砂丘を大別すると、二つ山（110m）から東側が「福部砂丘」で二つ山から千代川岸までが「浜坂砂丘」、また千代川以西、白兔海岸までを「湖山砂丘」とよんでいます。

一般に鳥取砂丘といえば浜坂砂丘をさし、各種観光施設もここに集中しています。

砂丘の砂はやや赤味を帯びた白砂で、日本海から吹きつける風が風紋をつくりあげ、また、凹状の擂鉢をいたるところに見せていて、擂鉢の大きなものは深さ30m、直径は数百mにも及び、底部からは清水が湧き出しています。

付近には、水面面積2.4km²、深さ17.3mの美しい多鯨ヶ池があり、ここが砂丘探勝の中心地で、また旅館、土産物屋なども軒を連ねています。

砂丘展望台・リフト・砂丘研究所などもあり、また、浜坂の旧砲台跡には、有島武郎の、

「浜坂の 遠き砂丘の 中にして
さびしき我を 見いでけるかも」

など歌碑が立てられています。



2. 鳥取平野と鳥取砂丘

千代川が造った 鳥取砂丘（浜坂砂丘）の成り立ち

鳥取砂丘は、千代川の運び出した砂が砂浜をつくり、そこから砂が風で運ばれて形成された海岸砂丘です。

東北や北陸の海岸砂丘のように汀線に並行した砂丘列をもたず、ほぼ二列の丘頂が認められますがこれは古砂丘と新砂丘の列です。

湾曲した急斜面に囲まれたスリバチが発達し、湧水なども見られます。

成り立ち

鳥取砂丘は火山灰土に覆われた更新世の古砂丘と完新世の新砂丘（一般の海岸砂丘）から成る複合砂丘です。

中国地方の基盤は花崗岩で、花崗岩は地殻の深いところで固まった火成岩です。これが地表面に露出するには、長年月を経て上部の地層が削りとられたこととなります。

千代川流域における花崗岩の分布は本流の智頭谷から中国分水嶺にかけて広く、最も厳しい侵食を受けたこの地域の大量の砂礫が千代川によって日本海に運ばれたと考えられています。



鳥取砂丘の六ジオサイト



2. 鳥取平野と鳥取砂丘

鳥取砂丘の六ジオサイト

- ①火山灰露出地 ②古砂丘と新砂丘 ③オアシス（鳥取砂丘）
- ④追後スリバチ ⑤砂丘第2列と長者ヶ庭のオアシス ⑥放物型砂丘

①火山灰露出地

鳥取砂丘中には新砂丘と古砂丘の間に大山倉吉軽石層等をはさんでいます。砂丘ユニオン背後の切割、浜湯山の露頭で重なりの様子が観察できます。

②古砂丘と新砂丘

砂丘は各種火山灰層（10万年～2・5万年前）をはさんで時代の異なる砂丘からなっていて下部を古砂丘、上部を新砂丘といいます。

③オアシス（鳥取砂丘）

砂丘に降った雨が、砂丘列にはさまれた低地に地下水として湧きだし、オアシスと呼ばれています。晩秋から初春にかけては池が出現します。

④追後スリバチ

砂丘内にみられる、湾曲した急斜面に囲まれた凹地をスリバチといいます。代表的な追後スリバチは32度の急斜面をもつ深さ20mのスリバチです。

⑤砂丘第2列と長者ヶ庭のオアシス

第2砂丘列の馬ノ背は、標高47m前後であり、陸側には標高19mほどの長者ヶ庭が広がっています。

⑥放物型砂丘

鳥取大学乾燥地研究センター敷地内の砂丘地には、植生被覆との関連で形成される小型の放物型砂丘（Parabolic dune）の発達が顕著です。



砂丘の番地をしるした杭



2. 鳥取平野と鳥取砂丘

鳥取砂丘の六ジオサイト

砂丘には、第一砂丘列の方向から海岸沿いに0、1、2…、内陸側にA、B、C…、と100m置きに線を引き、それらの交わる場所に砂丘の番地をしるした杭を打ち込んであります。

これは鳥取砂丘の砂の移動を調査するために設けられたものですが、この番地で場所を把握しながら、自然観察や砂丘探索を楽しむことができます。



鳥取の三砂丘群



2. 鳥取平野と鳥取砂丘

鳥取の三砂丘群

二つ山（110m）から東側が福部砂丘、二つ山から千代川岸までが浜坂砂丘、千代川以西、白兔海岸までが湖山砂丘と呼ばれています。

- ① **福部砂丘** ・ 直浪遺跡 ② **浜坂砂丘** ③ **湖山砂丘**

①福部砂丘

福部低地の北側に発達した海岸砂丘です。ラッキョウの栽培など砂丘農業が盛んです。砂丘背後に低湿地帯を形成し、かつて湯山池が広がっていました。

[ラッキョウ畑]

砂丘利用の農業の典型です。秋には赤紫色のラッキョウの花が畑一面を覆います。冬の間、緑の茎が砂地に残ることで飛砂を抑えることができる生活の知恵でした。

直浪遺跡

福部砂丘内に残る縄文～奈良時代の複合遺跡です。多数の土器や石器が発見され史跡として指定されています。

③湖山砂丘

千代川河口西側に広がる湖山砂丘は、標高15m前後の低い砂丘です。そのため、かつては畑ごとに浜井戸が掘られ、「嫁殺し」と呼ばれる水やりの重労働により、「鳥取市の台所」を担っていました。賀露付近には標高30mに達する小山が点在しますが、これらは基盤岩の山です。



湖山池と多鯰ヶ池



2. 鳥取平野と鳥取砂丘

湖山池と多鯰ヶ池

①「かすみ湖」とも呼ばれる **湖山池**

②中国地方で最も深い **多鯰ヶ池**

①「かすみ湖」とも呼ばれる **湖山池**

かつては日本海の湾入部でしたが、千代川による土砂の堆積作用によって北部に湖山砂丘ができ、古代鳥取砂丘を塞いだために生じた潟湖です。春には湖面がかすんで対岸が見えないことから「かすみ湖」とも呼ばれています。池は東西に約4km、南北に2.4km、深さ3mほどで水面の広さは約6.8km²あり、池の周囲はおよそ16kmになります。水は長柄川から注ぎ、湖山川によって賀露港に流れでます。



海進海退と湖山池

海進や海退は、縄文、弥生、古墳時代の遺跡と関係が見られ、縄文海進や弥生海退などといわれています。

湖山池は弥生海退の2千年前（弥生時代）頃が一番狭かったとされており、その後は次第に水位を上げ、古墳時代以後、平安時代に水位が急上昇したのではないかと考えられています。

湖山池南西の桂見遺跡や布勢遺跡に厚く溜まっているガマクソと呼ばれる泥炭層がありますが、桂見のガマクソの下には縄文と古墳時代の遺跡が、布勢では厚さ約1.5メートルのガマクソの上に中世の遺物が見られることからわかってきました。



2. 鳥取平野と鳥取砂丘

湖山池と多鯰ヶ池

〔湖山池と七つの島〕

池中には青島・団子島・猫島・津生(つぶ)島など7つの小島が浮かび、最大の青島からは、珍しい子持勾玉や、縄文・弥生土器などが多数出土しています。

また、日本のサクラの全品種、250種1000本のサクラ並木があり、四季ごとに変わる美しい風景で地域の人々に親しまれています。



2. 鳥取平野と鳥取砂丘

湖山池と多鯰ヶ池

②中国地方で最も深い **多鯰ヶ池**

鳥取砂丘の南方に位置し、東西に930m、南北に480m、湖岸線3.38km、面積は約2.4km²あります。

2～3月の増水期と7～8月の減水期とでは1～2mの水位変化があり、最大深度は17.3mと中国地方では最も深く、湖面は海面より16mも高いところにあります。透明度も湖山池や東郷池に比べて高く、約3.2mあります。

昔は海に連なっていましたが、砂の堆積によって切り離された潟湖(せきこ)です。

一般の潟湖とは異なり第三紀層の浸食谷を砂丘が塞いだ堰止湖です。

注入する河川も流出する河川もありませんが、近くの山々から水を集めて、排水は湖の東から行われ、灌漑用に使われています。

また、中央部には磯の御前(ごぜ)島・沖の御前島の2つの暗礁があり、減水期には水面上に姿を現わします。



湖山池・多鯰ヶ池と伝説



①湖面の急上昇を暗示 湖山池の長者伝説

②蛇身を現した お種の伝説

①湖面の急上昇を暗示 湖山池の長者伝説

『因幡誌』に湖山池の長者の伝説が紹介されています。

昔、湖山池は池ではなく、長者所有の田地でした。ある年の田植の時、国中の人夫を使って一日ですべて植えようとしたのですが、少し残ってしまったので、その長者は金の団扇を持って夕陽に向かって三度招いたところ、山に入ろうとしていた太陽が3段ほど昇り、無事に田植を終えることができました。次の年も富の力によって同じ事をしようとしたところ、ついに天罰が下り、田地はたちまち湖水へと変わって財宝もすべて跡形もなくなってしまうました。

つまり、これは、著り高ぶっていた長者の田畑が、天罰が下って一夜にして湖底に沈んでしまった話ですが、この伝承は平安時代の湖面の急上昇を物語っているのではないかともいわれています。

②蛇身を現した お種の伝説

池には悲しい伝説があります。

昔、お種という美しい女中がいました。冬の夜、誰かが「何か甘い物が食べたい」と言うと、お種はどこからかおいしい柿を取ってきて食べさせてくれました。不思議に思った若衆がある夜、お種の後をつけると、お種はこの池に来て蛇に身を変え、池の中にある島の柿の木に登っていました。若衆は驚いて逃げ帰りましたが、本当の姿を見られたお種は、そのまま池に沈み、再び姿を現すことはなかったそうです。



3. 袋川流域の山々の伝言



外の五山物語



3. 袋川流域の山々の伝言

外の五山物語

- ① 扇ノ山 ②大茅山 ③宝山 ④稲葉山 ⑤面影山

① 扇ノ山

鳥取県と兵庫県の県境に位置する扇ノ山は、標高1309.9メートル、国府、郡家、八東、若桜の境となっています。

「扇ノ山」の名は、南北に連なるなだらかな尾根筋と、裾野に広がる広大な高原からなり、遠くから見ると扇の形に似ていることから名付けられました。また、邑美野の中心、源太橋あたりから眺めると、扇は半開きにゆったりとしたスロープで左右に広がっていくことから、「扇」とは因幡鳥取側からの命名ではないかといわれています。

新三紀末から新四紀にかけて盛んに噴火を繰り返して山が高くなり、噴出溶岩によってできた標高1000メートル付近の台地状地形は美しい高原となっています。麓には名瀑の雨滝があり、登山口の近くには河合谷牧場、それを過ぎると水とのふれあい広場があります。

山頂は雑木林に囲まれた円形の広場のようになっていて、南西方向に展望が開けて兵庫県側がよく見下ろせます。

袋川はこの扇ノ山に源を発し、国府町から雨滝地区にある県下最大の名瀑、雨滝から西流して鳥取市街地へ流れ出ていきます。



②大茅山

岩美町と国府町の境、雨滝北西に位置し、標高は664.1メートル。

昔は茅を刈り取る山であったということから、この名がつけました。

地形図には登山道が記されていませんが、国府町の木原のスギ林の沢から入ることができます。途中で道は消えてしましますが、尾根づたいに歩けるそうです。今では茅の山にヒノキの植林が進んでいて、山頂には何もありません。

③宝山

国府町清水と八頭郡八頭町山上の間に位置する標高294.6メートルの山です。



3. 袋川流域の山々の伝言

外の五山物語

④稲葉山

美歎水源地の北西にあり、頂上から尾根筋にかけて平坦な稜線が続く、標高248.9メートルの山です。

「因幡山」「稲羽山」「伊奈波山」の他、宇倍神社鎮座まします山として「宇倍野山」「上野山」など多くの名で登場してきましたが、現在は「稲葉山」と呼ばれています。

『稲葉民談記』の「古来より大きな松山にて翠樹陰深い」姿は今はなく、近世の池田長吉時代に羽柴秀吉の鳥取城攻めによって荒れ果てた鳥取城の造営の用材として松や櫟などの伐採が進んで入会の採草地となり、薪や肥やし草などの恵みの山となりました。

その昔、多くの歌人に詠まれた山であり、因幡国守に就任した在原行平が詠んだ歌は百人一首の16番歌として知られています。

登山口は宇倍神社にあり、神社の石段上がると宇倍神社の手水鉢にも引かれている「七宝水」と呼ばれる水場に着きます。



⑤面影山

蜘蛛山の東尾根の小峰にあたり、中村山、正蓮寺山、倂(おもかげ)山などとも呼ばれている、
因幡国庁跡の東にそびえる標高100メートルの山です。

国庁跡から見ると、夕陽に照られた美しい姿を臨むことができます。

大伴家持の叔母である大伴坂上郎女の歌に、面影山を詠んだ歌があります。

「わがせこが おもかげやまの さかみまに
われのみこひて 見ぬはねたしも」

またほかにも面影山を詠んでいる歌がこの里に2首伝えられています。

「因幡よと 問ましものを こひしたひ わすれかたきは 倂の山」
「知るしらぬ 御法にもれぬ 教へにて 跡したわるる 面影の山」



面影山の二伝説



3. 袋川流域の山々の伝言

面影山の二伝説

①長慶院法皇の伝説

②八百比丘尼の伝説

①長慶院法皇の伝説

南北朝時代、甕山は北朝方に面影山は南朝方と関係があり伝説が残っています。

因州の守護民部少輔山名氏清公は、弟の氏冬に南朝第三代長慶天皇(当時はずでに長慶院法皇)を迎えに行かせ、丹後国桑田郡千歳村の千年山からこの面影山に招きました。

法皇は蒲生峠を越え、因幡国の岩美郡岩美町洗井の豪農井本家に宿泊しました。この時、旅でボロボロになった法衣を井本家に与え、今もそれは秘蔵されているといわれます。次いで岩美町長郷に滞在し、そこは“天皇ヶ平”と呼ばれ、また面影山では西麓の正蓮寺に隠れ住み、付近には“隠れ里”と呼ばれる所もあると伝えられています。さらに面影東麓の東今在家(ひがしいまざいけ)の御所に移り、“御所裡(ごっそり)”と呼ばれる由縁だということです。

②八百比丘尼の伝説

山の中腹に「八百比丘尼の住居跡」があります。面影山麓の居住する老女が大路山の鼠の岩屋で御馳走になりましたが、人魚の料理だけは食べることができず、懐に入れて持ち帰りました。

老女の一人娘がそれを食したところ、美しい娘のまま八百年生きたという、不老長寿の伝説が残っています。



内の四山物語



3. 袋川流域の山々の伝言

内の四山物語

- ①今木山 ②甑山 ③御陵山 ④手放山

①今木山

法花寺集落の東南にある標高88.9メートルの山で、古代に海を渡ってきた渡来人が住んでいた地として、「今来の山」ともいわれました。

昔はこの山に木が多く生え、稲を植えているようだったことから稲木山と言って今木山と書くようになったとする言い伝えもあります。

かつてこの地に今キ大明神という神社があり、地名を神号とする習わしがあったため、この里は今キといい、この地の山であるので今キ（衣）の山と言われていたと『因幡誌』にはあります。

また、『万葉集』にも詠まれている山です。



②甑山

稲葉山塊が大きく南に裾を落とし、袋川をねじ曲げるようにして打ち込んだ楔のようにそびえる標高110メートルの国府盆地の東の要衝的な存在の山です。

山名は、岡益の太田神社の太多羅大明神が近くの山をモッコで担いで国府町の町家までやって来た時にモッコの棒が折れて、担いでいた山を置き去りにしたという話や、武内宿禰が因幡の国に入った時、高草の鍋山に鍋をすえ、この山に甑(蒸し器)を置いて飯を焚いたという、国庁の里が製鉄や袋川の穀倉で栄えたことを示唆するような昔話に由来します。



3. 袋川流域の山々の伝言

内の四山物語

③御陵山

標高90メートルの御陵山は、「石堂の森」とも呼ばれています。

壇ノ浦の合戦から逃れてきた安徳帝がこの地に留まり、崩御されたという伝説が残ることから、この名が付けられました。

麓には6m四方の基壇の上に厚さ40cmの壁石で囲まれた石室があり、石室中央の柱礎の上にエンタシス方式の円柱が立てられ、中台の裏の忍冬文(パルメット)の浮き彫りにされ大陸伝来説が強調された、山陰最古の7世紀後半の建造物である「岡益の石堂」があり、安徳天皇御陵参考地としての指定を受けています。

当初の石堂は寛文2年(1662)の大地震で倒壊し、現在のものは近代の復元であるため、正確に元来の姿を伝えているがどうかは不明であり、また天皇陵と石造物との関係も明らかではありません。

〔全国の安徳天皇伝説〕

壇ノ浦で安徳天皇の遺体があがらなかったということから天皇生存説が流れ、陵地の伝承が各地に点在しています。

鳥取県の他にも山口、高知、佐賀、熊本、長崎、鹿児島、宮崎県など10余県にあり、その内の5カ所が陵墓参考地として指定を受けています。

一般的には安徳天皇は文治元年(1185)3月24日、享年8歳で壇の浦で海中に没し、山口県下関市阿弥陀寺町の「阿弥(あみ)陀寺(だじの)陵(みささぎ)」という御陵に祭られています。



3. 袋川流域の山々の伝言

内の四山物語

④手放山

美しい山容から地元の人々からは別名「神垣富士」とも呼ばれている、標高461.2メートルの山です。

手放山は因美線東郡家駅の東北東約7キロメートルの位置にあり、西南西3キロメートルの宝山との間に袋川が流れています。



[山をどうして「せん」と呼ぶのか]

鳥取県と兵庫、岡山県にまたがる地域の山は「せん」と呼ぶ山が多くあります。

大山(だいせん)、船上山(せんじょうせん)、若杉山(わかすぎせん)、氷ノ山(ひょうのせん)、蒜山(ひるぜん)、泉山(いずみがせん)、毛無山(けなしがせん)、人形仙(にんぎょうせん)、那(な)岐(ぎ)山(せん)、甲ヶ山(かぶとがせん)、東山(とうせん)、扇ノ山(おうぎのせん)……

大昔からこの地方の人は山を「せん」と発音していました。

また、仏教のお経の読みは全て呉音です。そこで山岳修験道場の山、例えば吉野大峰の弥山(みせん)、秋の宮島・厳島の弥山(みせん)、伊予の石鎚山の弥山(みせん)、京都東山の霊山(りょうぜん)等、「せん」が使われている山も多いのです。



因幡三山物語



3. 袋川流域の山々の伝言

因幡三山物語

①面影山

②今木山

③甌山

大和三山に思いを馳せた因幡三山として、因幡国庁跡を取り囲むように身近に見える山です。東に甌山、南に今木山、そして西に面影山がそびえます。国府に赴任してきた当時の人々にとって、この三つの山は国庁を中心に三角形に配置されているところや独立峰であるところ、さらにはなだらかな女性的な面影山と男性的な両側の甌山と今木山の山容が大和三山（耳(みみ)成(なし)山(やま)、畝傍山(うねびやま)、天香具山(あまのかぐやま))を彷彿させたことに因み、昭和30年ごろ高岡の川上貞夫氏により命名されました。



[大和三山]

①耳成(みみなし)山、②畝傍(うねび)山、③天香具山(あまのかぐやま)

奈良盆地南部にある天香具山(152m)・畝傍山(199m)・耳成山(139m)の三山の総称であり、畝傍山を頂点にして、藤原京跡を二等辺三角形に囲んでいます。

畝傍山や耳成山は旧火山のため独立峰ですが、天香久山は龍門山地の支脈が風化侵食された山で、古代から神聖視されてきました。

耳成山と天香具山を男性にたとえ、女性にたとえられた畝傍山の恋争いをしたという伝説になぞり、中大兄皇子が弟の大海人皇子と額田王の妻争いを詠った三山歌を『万葉集』に見ることができます。

他にも畝傍山の桜児伝説、耳成山の縵児(かづらこ)伝説など、美しい女性が複数の男性に求婚され、悩んだ末に死を選ぶという伝承が残ります。

三山はいずれも標高200mに満たない低山ですが、都の四季の情景として、都を離れた地での思い出として、または男女の三角関係にたとえられたりと、神聖であり親しみのある山として多くの歌人に愛され、詠まれた山です。



甕山の二伝説



3. 袋川流域の山々の伝言

甑山の二伝説

①巨人がつくった甑山伝説

②武内宿禰の甑山伝説

①巨人がつくった甑山伝説

岡益の太田神社の太多羅(ダイタラ)大明神(巨人ダイタラ坊)が近くの山をモッコで担いで歩いていた時、担ぎ棒が折れて、担いでいた山がこぼれて甑山となりました。

②武内宿禰の甑山伝説

武内宿禰が因幡の国に入った時、高草の鍋山に鍋をすえ、蒸し器(甑)を置いて飯を炊いた山が甑山といわれています。



3. 袋川流域の山々の伝言

甕山の二伝説

[河合谷高原]

扇ノ山山頂部の標高1,000mに広がる扇ノ山溶岩からなる溶岩台地です。高原は大山火山灰等に厚く覆われ表土はクロボクです。開墾され夏季には放牧地となっています。

河合谷高原の歴史は古く、伝承によると貞観年間(八五九~八七七)この地に、河合谷長者が住んで居いました。

その後何百年も広い茅野と森林で、雨滝村や鳥越村などの炭焼や山菜取り場となっていました。



[上山高原]

標高1,000mの上山高原は扇ノ山火山の溶岩台地です。台地上にはスコリア丘があります。自然散策の高原として好まれています。



「平」（がなる）と呼ばれる四丘



3. 袋川流域の山々の伝言

「平」（がなる）と呼ばれる四丘

- ①宝殿ヶ平（ほうでんがなる）
- ②崩御ヶ平（ほうぎょがなる）
- ③太閤ヶ平（たいこうがなる）
- ④天皇ヶ平（てんのうがなる）
- ⑤戦場ヶ平（せんじょうがなる）

鳥取地方では、ひらけた地域を「平」（がなる）と呼んでいます。
袋川流域にもこの名が示すように「平」（がなる）と呼ばれる、ひらけた丘があります。

①宝殿ヶ平（ほうでんがなる）

高岡集落の上方に見える、なだらかな丘のことを宝殿ヶ平と呼んでいます。名前の由来はよくわかっていないようですが、昔、高岡神社があった所といわれています。宝殿ヶ平は非常に見晴らしがよく、国府平野が一望できます。

②崩御ヶ平（ほうぎょがなる）

荒舟集落の南方の山頂に崩御ヶ平といわれる台地があり、壇ノ浦より落ち延びた安徳天皇崩御の地と伝承されています。そこには武王神社、皇居、平家城、崩御宮、寺院等多くの建物のほか、馬の調練場所まであったとも言われていますが、確かなことはわかっていません。



3. 袋川流域の山々の伝言

「平」（がなる）と呼ばれる四丘

③太閤ヶ平（たいこうがなる）

久松山の東北にあり、本陣山とも呼ばれています。約400年前、天正年間に羽柴秀吉が鳥取城を攻めた時に羽柴秀吉率いる織田勢がこの太閤ヶ平に陣屋を置き、久松城を守る吉川経家を大規模な包囲作戦と兵糧攻めで自刃に追いつめた戦の跡が残っています。

この山の山頂600坪を切り開いて陣屋を置き、土手の高さ3mの塹壕、土塁を築いて、周辺に空堀を廻らせました。その陣屋跡は今も残り、千成ひょうたんを模した土塁の跡が現存しています。山頂一帯は自然公園として整備され、市街地や日本海の眺めがよく、樗谿公園から久松山へ至るハイキングコースにも通じています。

④天皇ヶ平（てんのうがなる）

南北朝時代、因州の守護民部少輔山名氏清公は、南朝の長慶院法皇を面影山に招き、そのとき法皇は蒲生峠を越え、因幡国の岩美郡岩美町洗井、そして岩美町長郷に滞在したと伝えられています。そのため長郷のあたりは天皇ヶ平と呼ばれるようになりました。

⑤戦場ヶ平（せんじょうがなる）

『稲葉佳景 無駄安留記（むだあるき）』（著：逸處米質）では、羽柴秀吉の鳥取攻めの舞台となった丸山のあたりを、「戦場ヶ平鶴尾（ひよどりお）」と書きあらわしています。

『因幡誌』には「丸山」「千本松」と書かれ、険しい山容で簡単には登れず、夏になると蚊が多く、山に入る人はほとんどいなかったとありますが、『無駄安留記』の著者は頂上でゆっくりお酒を飲みながら楽しんでいた様子が伺えます。



流域の三峠物語



3. 袋川流域の山々の伝言

「平」（がなる）と呼ばれる四丘

- ①十王峠
- ②門尾三本松峠
- ③鶏冠尾の峠

①十王峠

雨滝集落から十五町ほど登った所にある十王峠は、雨滝街道（法美往来）の国府町と岩美町の堺にあたり、昔から但馬を通して京都に至る山陰道として、国府から国主を初め諸役人の往来や貢物の運搬などの重要な役割を果たしてきました。

戦国時代の末、豊臣秀吉が牛が峯や七曲城を攻めた時に、十王峠を登ったとも言われています。旧藩時代も但馬や岩井郡に行く通行の要路であったので、幕末には雨滝部落の峠道に番所を置いて通行人を取り締った事もありました。

十王とは、死者が冥途に行く時、この世でおかした罪を裁ばく閻魔大王など十人の王の事で、この王たちに裁かれて来世では善人になって生れてくるといわれています。山岳修験にゆかりの地でもあることから、あの世の入口と信じて名付けたられたということです。



3. 袋川流域の山々の伝言

「平」（がなる）と呼ばれる四丘

②門尾三本松峠

この峠は、江戸時代、若桜往来と呼ばれた道が通っていた所で、鳥取の城下町に入る最後の峠でした。

鳥取市祢宜谷と八頭町門尾の境に位置しており、峠には三本の松がありましたが、現在は二本の大松が残っています。法華宗供養塔・茶屋跡・孝夫塚・岡嶋家墓地なども残っており、峠は町の文化財に指定されています。

③鶏冠尾の峠

下木原から岩美町へ通じている道で、この峠の下には茅ん堂と呼ばれる小さなお堂があります。茅ん堂のお地蔵様は岩美町外邑(とのむら)のお地蔵様と仲良しで、ある日外邑が火事に見舞われた時には、峠を越えて外邑の地蔵を助けに行き、消化につとめたという民話が残っています。



十王峠と逸話



3. 袋川流域の山々の伝言

十王峠と逸話

- ①冥府への入り口伝説
- ②ケイ東塚の哀話
- ③太閤の一口水
- ④塚の向（つかのむこう）

①冥府への入り口伝説

十王とはこの世でおかした罪を裁く、秦広(しんこう)王(不動明王)・初江(しょこう)王(釈迦如来)・宗帝(そうてい)王(文殊菩薩)・五官(ごかん)王(普賢菩薩)・閻魔(えんま)王(地蔵菩薩)・変成(へんじょう)王(弥勒菩薩)・泰山(たいざん)王(薬師如来)・平等(びょうどう)王(観音菩薩)・都市(とし)王(勢至菩薩)・五道転輪(ごどうてんりん)王(阿弥陀如来)の十人の王たちのことであり、この峠があゝの世の入口と信じられていました。

②ケイ東塚の哀話

十王峠を越えて銀山村へ向かう道沿いに酒屋がありましたが、ある冬、雪が家を押つぶして一家の人々は残らず圧死してしまいました。

その主人に“ケイ東”と法名がつけられたので、弔われたこの塚を「ケイ東塚」と呼びました。



③太閤の一口水

銀山村より登って十王峠の峰の右、道ばたの平地に清水が湧き出ています。

羽柴秀吉が城攻めのためにこの峠を越そうとした際、炎暑で武将達が喉を乾かしていたので、秀吉が鎗の石突きを地に突き通したところ、そこから水が湧き出しました。

その後、銀山が繁昌の時にここに鉛座を建てたので、鉛座清水ともいわれました。

④塚の向（つかのむこう）

十王峠の地蔵尊の前に「ケイ東田」と称した小さな田んぼがありました。また大杉谷口川の向いを「塚の本」といい、その右を「塚の向」と字名がついています。

この「ケイ東田」や「塚の本」のいわれを知る人は少ないようですが、通行人のために一里塚が大杉谷口に作られたので、この地を塚の本と呼び、「ケイ東田」については、この地にケイ東塚があったからといわれていますが、詳しいことはわかっていません。



4. 水の流れと自然メッセージ



千代川



千代川

概要

千代川は、岡山県境に近い智頭町駒帰の東方沖ノ山（1318.8m）を源流とする、流域面積1,190平方キロメートル、幹川流路延長52キロメートルの県東部を北流する一級河川です。

智頭町・鳥取市用瀬町・鳥取市河原町を貫流し、土師川・佐治川・曳田川・八東川・野坂川・袋川を合流して賀露港に注いでいます。鳥取市円通寺で鳥取平野に達し、平野では自然流として幾度も流路を変えた暴れ川でした。昭和2年には八千代橋から賀露港まで水路をつけかえ、堤防が完備されました。

成り立ち

地球が自然環境を形成していった200万年という時間の流れの中で、海進・海退を繰り返しながら、千代川は中国山地の山々の肌をけずり取り、谷を刻み、運んだ土砂を河口近くにためて、鳥取平野という沖積平野を生成していきました。

山間の谷筋を流れ下ってきた千代川は、鳥取平野で縦横にその流れを変えて上流から下流へと土砂を運びながら、その流れを洪水のたびごとに変化させてきました。

底湿の沖積平野のほとんどの場所は人の生活できる場所ではなく、原始のままに川筋を変え、氾濫する千代川の沖積地は、アシの生い茂る湿原であったと考えられています。

こうした低湿地が水田に開拓されて整えられていくのは、16世紀（江戸時代初期）以降になります。それらの開拓と治水の歴史は、現在でも千代川の川筋に追うことができます。



千代川と二伝承



①千代川の名称由来 ②「千体」にまつわる伝説

①千代川の名称由来

川名は戦国時代末期から江戸時代初期には「仙大川」（寛永22年『山県長茂覚書』吉川家文書）、『陰徳太平記』には「千谷川」と記され、一国数郡の谷々の流れがみなこの川に流れかわることから付けられた名で「せんたに」と唱えるのを文字に受けて「せんだい」と書かれたという説や、地元民が「せむだい」とよんだことから「千代」の字があてられるようになったという説があり、その他にも「泉台」や「千体」といった説があります。

②「千体」にまつわる伝説

弘法大師が上流の山にある千の谷に一体ずつ仏像を安置しようと千躰の仏像を刻んでいたところ、999谷しかなかったために、仏像を全て川に流したという伝説や、三面鬼という山賊を退治の際に、薬師如来の像を千体に刻んで成敗の成就を祈願し、願いが叶ったという伝説があります。



袋川



概要

千代川水系の1級河川。同水系では八東川に次いで2番目に長く、流長28.4kmあります。兵庫県境にそびえる扇ノ山に源を発し、県下最大を誇る雨滝地区の高さ約40mの雨滝から西流して木原・下木原地区で流れを南に向け、栃本地区で大石川を合流し、楠城・拾石と流れ、殿地区で神護川を、下流の源門寺地区で上地川をそれぞれ合流します。

松尾地区で北西に大きく流れを変えて新井・山根・神垣・谷・玉鉾・麻生を通過し、南流してきた美歎川と合流したのち、宮下地区や面影山の北、東今在家・大杵の地区を通り抜けます。



4. 水の流れと自然メッセージ

袋川からのメッセージ

(袋川の名称由来と名称変更)

『鳥府志』によると、

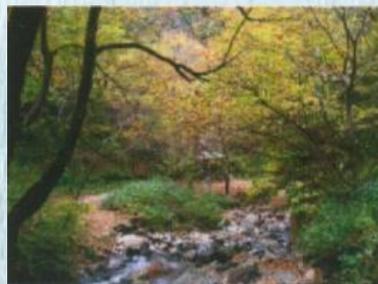
「鳥取の山下にありたる沼沢を埋地となさんとて、川脈を此方へ切込みたる時、数町の間いづれを川脈と云ふことも無く、広き処を流通りしゆへ、袋川の名称は是より起りたる歟。されば今の御城下のあたりにて呼たる名ならん歟と臆察せらるる也」

とあるように、屈曲の激しい蛇行河川であることから名付けられたといわれています。

特に袋川下流部一帯は軟弱地盤のため浸食が甚だしく、流路の蛇行は千代川水系で最も激しいものでした。

(『鳥府志(ちょうふし)』とは：文政12年(1829)に鳥取藩士・岡嶋正義(1784~1859)が著した鳥取の地誌。)

昭和9年、大杣の大杣橋から西進して吉成・古市を通り、千代橋の袂で千代川に注ぐ放水路が完成したため、新河道を「袋川」と呼ぶようになり、大杣を北流し、市街地をうねるように流れて浜坂で千代川と合流する旧河道を「旧袋川」と呼称しましたが、平成18年4月より名称が改められ、新河道が「新袋川」、旧河道が「袋川」へと変更されました。



4. 水の流れと自然メッセージ

袋川からのメッセージ

(袋川の源流を訪ねて)

扇ノ山に源を発する袋川。その袋川の源流に建てられた碑は、雨風に晒され朽ち果てた状態でした。そこで新たな碑を建立することが決まり、平成17年10月11日、小学生21名を含む総勢38名の『袋川源流探検隊』が、扇ノ山の中国自然歩道“河合谷登山道コース”から入山し、源流を目指しました。40分ほど歩くとブナの林に囲まれた自然豊かな所に「袋川源流の碑」を発見。9年前に建てた時にはここから水が湧き出ていたそうですが、驚いたことに、この年は夏の降水量が少なかったせいか、水は湧き出していませんでしたが、袋川の河原で拾った石に参加者が思い思いのメッセージを書いて、水の恵みと豊かな自然、世界の平和などの願いを込めて再建立した「袋川源流の碑」の根元に埋め、袋川への思いを新たにしました。



袋川名称由来と袋川・九呼称



4. 水の流れと自然メッセージ

袋川名称由来と袋川・九呼称

- ・ 雨滝川・・・雨滝より国府町谷までの、現在の袋川上流は雨滝川と呼ばれている。
- ・ 国府川・・・雨滝川より下流で天神川と合流する矢津（現・立川町）辺りまでの、現在の袋川中流部分の別称。因幡川ともいう。明治の始め頃開校した宮ノ下小学校校歌に見られる。
- ・ 因幡川・・・天神川と合流する矢津（現・立川町）の辺りまでの別称。国府川ともいう。平安時代の歌人・藤原兼輔の和歌や『因幡誌』に見られる。
- ・ 袋川・・・因幡川より下流部分のことを昔は袋川と呼んでいた。明治時代に行政名として指定されて以降は、全川を袋川と呼んでいる。
- ・ 新袋川・・・昭和9年に完成した、大杵から西進して千代川に注ぐ放水路。平成18年より新袋川と名称が変わった。
- ・ 城川・・・鳥取城の堀をなす川として城下付近を呼んでいた。
- ・ 法美川・・・源流から大杵地区あたりまで、法美郡を流れることによる別称。『時範記』（因幡国守平時範の日記。承德3年（1099）2月26日のくだりに「次至于法美川乗船参三嶋社（法美川から船に乗り三嶋社へ参る）」とある。）
- ・ 湊川・・・『太閤記』（賀露の湊から鳥取城に舟運の使いをもたらす唯一の水路）。
- ・ とっとり川・・・『信長公記』（織田信長の一代記。著者は信長の家臣・太田牛一）



雨滝四十八滝物語



雨滝 四十八滝物語

雨滝四十八滝とは、那智の四十八滝や、いろは四十八文字にたとえて言ったもので、四十八は滝の数ではなく、次に説明する滝もふくめての総称であり、数が多いという事を言葉に表わした呼び名です。

雨滝は幅4m、高さ40mという鳥取県随一の飛瀑を誇り、扇ノ山溶岩がつくる河合谷高原の北西縁部であって、溶岩流の末端部にあたります。

溶岩は黒ずんだ安山岩（両輝石安山岩）の冷却に伴って規則的な柱状の割目（柱状節理）を生じた岸壁よりなった特異な景観を呈し、トチ、ブナなどの千古の原生林に包まれた滝です。昭和60年に鳥取県が選定した「因伯の名水」の指定を受け、また、断崖絶壁を轟音とともに落水する壮観な威容から、平成2年には「日本の滝百選」にも選ばれています。

古来より有数の霊場として善男善女の修行の場、お遍路さんの信仰の場として活用され、今なお神秘的な霊境としての雰囲気を残しています。滝の下には石造りの不動明王が安置されています。



4. 水の流れと自然メッセージ

雨滝四十八滝物語

- ①布引き滝、②筥滝、③樋滝、④平滝、⑤比丘尼滝、⑥夫婦滝、⑦親子滝
⑧馬淵滝、⑨一番滝、⑩二番滝、⑪菖蒲谷滝

①布引き滝

純白の絹糸を懸け流したような美しさからその名がつけました。山の中腹より湧き出る地下水のため、長期の日照りに豪雨にも水量が変わることはなく、清流が絶えることはありません。雄大で男性的な雨滝と女性的な布引の滝は好対照になります。

延宝年間(1673～1681年)には、専誉上人が神拝設定した因幡西国三十三ヶ所の二十番札所がこの地に置かれていました。

「観音の 誓いあらたにましまさば 奈加礼もたえぬ 布引の滝」と御詠歌が詠まれています。なお、一番札所は鳥取市長谷の長谷寺、十八番は谷村峰の観音円城寺、十九番は殿村の観音堂です。



② 筥滝

雨滝の前にかかる桂橋を渡り、鉄板の階段を登って、トチ、ケヤキ、ブナなどの原始林の中を800mほど進んだところにある三段の滝です。

扇ノ山、河合谷高原を源とした冷水が流れてきます。縦横3m、深さ1mばかりの岩の重箱に清流が溢れ、その水が流れて下の重箱に落ち、また溢れて下の重箱を満しています。こうした数段の重箱が谷の斜面に並んで一つの滝をつくっており、大滝の雄大さとは異なって神秘的な感じがします。

また、滝壺にまつわる哀れな亀の伝説があります。



雨滝四十八滝物語

③樋滝

雨滝をさらに上流に登った奥、親子滝から200m位進んだところにあります。にあります。山の岩盤が急な流れに掘られた様子が樋のように見える、三段になった急流で、目を見張るばかりの見事な滝です。高さ30mほどの滝で、岩の隙間から白い飛沫をあげて落下する、勢いのある滝です。

④平滝

樋滝の上にある大きな滝です。

⑤比丘尼滝

樋滝の手前を右に別れた谷にあり、水量は少ないが、高さのある見事な滝です。小屋尾道(雨滝の右の山の尾根道)を進むと左手に見る事ができます。比丘尼とは何か伝説がありそうな気もする滝です。

⑥夫婦滝

雨滝と樋滝の中間にあります。雨滝から中国自然歩道を登いくと、道の左手に二つ並んだ高さ10mほどの滝があります。これは大正10年、岩田知事が踏査した時に、岩田知事の質問に対して部落の案内役をした伍長の岸本富蔵氏と北村幾太郎氏の二人が即座に名付けて答えた滝の名であるといわれています。



雨滝四十八滝物語

⑦親子滝

夫婦滝のすぐ上にある、高さ7mほどの大と小の滝です。これも夫婦滝と同様、大正10年に岩田知事が踏査した際に、岸本富蔵氏と北村幾太郎氏の二人が即座に名付けて答えた滝の名であると言われていています。

⑧馬淵滝

筥滝の奥、河合谷高原の下にあります。河合谷長者(鳥越長者ともいう)の息子が乗りまわしていた愛馬が落ちたので、馬淵と名付けられました。この滝の上のあたりに、自然のものなのか、または河合谷長者が造ったものなのかは定かではありませんが、川底一面に不思議な石畳があります。

⑨一番滝

二番滝、菖蒲谷滝とともに、雨滝の右、仏谷の奥にあります。水量が少なく、目立たない滝です。

⑩二番滝

一番滝、菖蒲谷滝とともに、雨滝の右、仏谷の奥にあります。水量が少なく、目立たない滝です。

⑪菖蒲谷滝

一番滝、二番滝とともに、雨滝の右、仏谷の奥にあります。水量が少なく、目立たない滝です。



古書に見る雨滝 『稲葉民談記』 と 『因幡誌』



4. 水の流れと自然メッセージ

古書に見る雨滝『稲葉民談記』と『因幡誌』

『稲葉民談記』

「雨滝、妙見大明神。タキナミ間アリ。前ニカツラギノ木アリ、廻り十三カ、へ有。布引タキ、箱ダキ大魔処ナリ。仏谷ト云有。村ノオクヨリ但馬海上ニ出ル」

* 「タキナミ間」…たきつぼ

* 「カツラギ」…桂の木

* 「十三カ、へ」…大人13人が手をつないで計った長さ、約20m

* 「大魔処」…ものすごく険しいところ

（『稲葉民談記』とは：

江戸時代、小泉友賢(ゆうけん) (1622～1691) によって書かれた鳥取の地誌。貞享5年(1688)頃完成したといわれています。寛永9年(1632)のお国替えにより備前国から移住し、藩医を辞職した後に約20年かけて因幡国中の名勝旧蹟等を訪ね、また各土地の古老から口碑・伝説を聞いてまわり、記録したものです。)



4. 水の流れと自然メッセージ

古書に見る雨滝『稲葉民談記』と『因幡誌』

『因幡誌』

「村より東に當りて谷奥十五町許りにあり。其地絶岩聳え谿谷幽にして四時蒼翠たり。ばく布は南向にしてたかさ十二丈余なり。飛泉雲を穿ちて上天より下りきたるが水響殷々山鳴り谷応ふ。奇絶言はん方なし。以て慮山の銀河三千丈の壯観にも比すべきか（中略）たきの右方、石壁に不動の像を彫刻せり。直下に桂の老樹あり一株十二本に分れたり。周囲五丈余うっそうとして一大森林の観あり。幾ばくの星霜を経てここに至れるや（中略）またその北側に一瀑水あり（中略）布引瀑という。風景また佳なり…」



『因幡誌』の雨滝図



4. 水の流れと自然メッセージ

古書に見る雨滝『稲葉民談記』と『因幡誌』

（『因幡誌』とは：

藩医・安倍惟親（これちか）（1734～1808）によって民談記の体制がさらに整えられ、詳密に書かれた鳥取の地誌。寛政7年（1795）頃完成。『稲葉民談記』から百年間の史誌の変遷とともに、異説があれば自ら古文書を改め、現地を踏査して考証への正確を期して書かれているといわれています。）

・雨滝の由来

『因幡誌』では、「飛溜沛然（はいぜん）として四方に乱れ散る勢ひ、さながら暴雨のそそぐが如く空翠常に人衣を濕（うるお）せり。昔は如何許りにや有けん。あめ滝と名づけしも其故なるべし。」と書かれており、季節を問わずに常に豊富な水量で、雨のように勢いよく飛沫を上げて落ちてくることに由来するようです。



雨滝 伝説



- ① だいじょうごんの坂<雨滝>
- ② 雨滝の伊平の知恵<宇倍神社>
- ③ 亀が淵伝説<筥滝>
- ④ シラジラババアのたたり伝説<七曲り城址>
- ⑤ 羽柴秀吉の貂の皮淵伝説<雨滝川>
- ⑥ 桜田門の扉に使われた大柵の木伝説<雨滝の木材>
- ⑦ 蛇(じゃ)山(やま)城の伝説<雨滝の愛宕山>

① だいじょうごんの坂<雨滝>

雨滝集落から雨滝に行く途中にある急な坂道のことを、地元では「だいじょうごんの坂」と呼んでいます。「だいじょうごん」とは暦の吉凶を司る八神の大將軍のことで、太白(たいはく)(金星)の精であり、この神の方向は3年塞がるとされて忌み嫌われていたため、暦学の方位と急な坂道の地形を重ねて、この坂より先への立ち入りを避けていました。

② 雨滝の伊平の知恵<宇倍神社>

ある日、若殿が領地を検分するので、物知りによく知恵のまわる雨滝村の伊平という老人が案内役に選ばれました。宇倍神社の前に来たとき、茶目気の多い殿様がこの寺の名前を尋ねると、伊平は“一宮山・長命寺”と答えました。さらに次々と絶妙に答える伊平の博学に殿様は感心し、引出物を下されました。



雨滝 伝説

③亀が淵伝説<笹滝>

雨滝村に亀という心の優しい男の子がいました。両親を早くに亡くし、心の悪い義理父に何一つ不平を言わずに働いていましたが、ある年の春、二人が淵の横の山で薪を伐っていたところ、亀が鉈を取り落とし、雪解け水で水かさが増した下の淵に沈んでしまいました。義理父に鉈を拾ってくるように命じられた亀は淵に入りましたが、それきり上がってくることはなく、この滝壺のそばに来ると亀の悲しげな声が聞こえるようになりました。

④シラジラババアのたたり伝説<七曲り城址>

雨滝に向かって左の陰阻な山を城坂山といい、この山上に七曲り城がありました。羽柴秀吉が天正8年(1580)11月にこの城を攻め、寒気と食糧不足のため力尽きた武将以下全員が28日に自決しました。その時の城主の年老いた母親が怨霊となって、毎年11月28日には大嵐や大吹雪を起こしたり、山人に大きな石を転がして害を加えるなどの事故があったため、この日は天気が良くても山の近くに出掛ける者はなく、この怨霊を「シラジラババア」といって恐れていました。

⑤羽柴秀吉の貂の皮淵伝説<雨滝川>

羽柴秀吉が七曲り城攻めを目前にして、雨滝川(袋川)中の大きくて平らな岩上で休憩していたとき、秘蔵の貂の皮袋に入れた南蛮渡来の香を取り出そうとして、深い淵の中に落としてしまいました。その後何年もこの淵の上を通ると良い香りがし、この淵を貂の皮淵と呼ぶようになりました。



雨滝 伝説

⑥桜田門の扉に使われた大栃の木伝説<雨滝の木材>

雨滝の深山は原始林のように栃やブナ、桜、朴などの大木が茂り、その中でも一段と大きな栃の木がありました。城普請の際に直径が4m以上あったといわれるこの木が切り出され、大雨の時に雨滝川（袋川）を流して城に運びましたが、城普請には使わず、江戸城の内桜田門（桔梗の門）の扉に使われたということです。

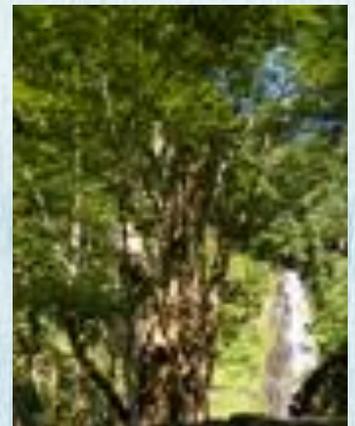
⑦蛇(じゃ)山城の伝説<雨滝の愛宕山>

雨滝の愛宕神社が鎮座する山には戦国時代に山崎の毛利氏の出城があり、山の名を蛇山といたので蛇山城と呼ばれました。城は南東に面して建っていたらしく、下の田んぼの名を浄禅（城前）、山すその道を浄禅山川（ほおき）、道の下を流れている川を山川（ホーキ）、山川と対照して広い田んぼの中に走る真っ直ぐな道を躰（なわて）といいました。

[雨滝前のカツラ]

雨滝の滝壺より50mほど手前の左手に、桂の老木があります。江戸時代の記録によれば、幹の周囲が20メートルあり、日本の名木320本のうちに数えられていました。樹齢数百年の老桂樹（かつら）には神霊が宿るとされ、長寿にあやかるように多くの人がお祈りをしたということです。しかし、いつの頃か、落雷により幹が空洞化して、根本から生えた数本が現存しています。

また、鳥取藩士で歌人でもある小林大茂によって、「いつの世に この桂の種生えて 雨の大滝 風かおるらん」という歌が詠まれています。



扇の山周辺の渓谷

[小又川渓谷]

標高1,000mの上山高原は扇ノ山火山の溶岩台地です。台地上にはスコリア丘があります。自然散策の高原として好まれています。

①シワガラの滝

[霧ヶ滝渓谷]

①霧ヶ滝

扇ノ山北部の上山高原末端部の滝です。標高750mに位置する高さ約60mの滝で下部の角礫岩層を覆うように谷を流れた厚さ20mの扇ノ山安山岩上の小谷から落下します。流れ落ちた水は霧となって落下し滝壺はありません。



霧が滝（湯村温泉観光協会HP）



国府町の二湧水



国府町の二湧水

①七宝水

②清水

①七宝水

稲葉山の中復からわき出ている湧水。伝承によると、霊験あらたかな水で、病人などに大変御利益があるといわれています。また宇倍神社の手水鉢(ちょうずばち)のお清め水にも用いられています。

稲葉山に七宝神社という神社があり、七宝水という名はその神社の名前によっています。稲葉山には古くから但馬に行く山道があり、旅人たちはこの水でのどを潤していたことでしょう。

②清水

「清水」と書いて「すんず」と読みます。
地名「清水」のいわれとなった清水集落の山裾からわく清水。古くは「澄水」と書いたようで「すみみず」―「すみず」―「すんず」と言い方が変化し、「澄水」が「清水」に変わったといわれています。



鳥取周辺の六温泉



4. 水の流れと自然メッセージ

鳥取周辺の六温泉

- ① **鳥取温泉**（鳥取市）
- ② **吉岡温泉**（鳥取市）
- ③ **鹿野温泉**（鳥取市）
- ④ 浜村温泉（鳥取市）
- ⑤ 岩井温泉（岩美町）
- ⑥ **湯村温泉**（新温泉町）

（いなば温泉郷）

鳥取県東部に位置する「いなば温泉郷」には、鳥取温泉・吉岡温泉・鹿野温泉・浜村温泉（鳥取市）、岩井温泉（岩美町）があります。海岸型・グリーンタフ型の温泉と位置づけられています。これら5つの温泉のうち、鳥取温泉・吉岡温泉が鳥取砂丘エリア内の温泉です。



鳥取周辺の六温泉

① 鳥取温泉（鳥取市）

鳥取駅から徒歩5分の市街地に源泉をもつ温泉です。開湯は明治37年で、湯量豊富な温泉はナトリウムを多く含み、透明です。繁華街の中にある温泉として珍重されています。深度50m位の深さで揚湯しており、河原火砕岩の割れ目から流出しています。

県庁所在地に温泉の湧く例は全国的にも珍しいといわれています。

② 吉岡温泉（鳥取市）

鳥取市内からほど近い、湖山池のほとりにある温泉地です。14世紀には発見されたと伝えられる温泉で、江戸時代には鳥取藩主の浴場が設けられるなど、湯治場として栄えました。鳥取花崗岩の割れ目から流出しています。

伝説によると、今から約一〇〇〇年前、芦岡長者の娘の顔に腫物ができて悲しんでいると、ある夜夢の中に薬師如来が現れて、ヤナギの下に霊泉があると教えたのが始まりと伝えられています。



鳥取周辺の六温泉

③ 鹿野温泉（鳥取市）

1954年に開発され、鳥取花崗岩の割れ目から流出しています。

閑静な城下町は戦国時代の武将・山中鹿之助や鹿野城主・亀井茲矩ゆかりの地です。単純泉で、温泉温度は50～70度。

④ 浜村温泉（鳥取市）

山陰本線を挟んで北を浜村温泉、南を勝見温泉といい、この両方を総称して浜村温泉とよんでいます。

勝見温泉の開湯は文亀元年（一五〇一）といわれ、昔は鷺の湯とよばれていました。一方、山陰本線を隔てて北の浜村温泉は、明治になって開発されたもので、なだらかなスロープを描く砂丘の一角に湧く温泉であります。

貝がら節の発祥地で、豊富な湯量と500年の歴史。美しい白鷺が傷を癒したと伝えられます。



4. 水の流れと自然メッセージ

鳥取周辺の六温泉

⑤ 岩井温泉（岩美町）

平安時代に発見された因幡最古の温泉です。開湯1300年といわれ、「国民保養温泉地」に指定されています。

湯かむり唄を歌いながら柄杓で（ひしゃく）で頭に湯をかける奇習「湯かむり」が江戸時代から伝わり、今も保存会によって受け継がれています。温泉効果を上げるために、長湯をするよう考え出されたものだとか。先人が考え出した知恵です。

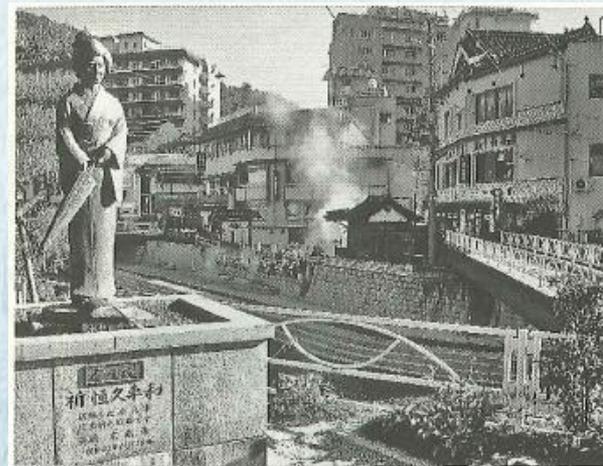
江戸時代には、近くで繁栄していた荒金・銀山などからの湯治客で賑わい、今も当時の面影が町並みに残ります。

⑥ 湯村温泉（新温泉町）

岸田川の支流春來川の清流をはさみ、国道9号線に沿った県境にある山峡の温泉で、東・西・南の三面に緑の山をめぐる療養向きの閑静な温泉である。

この温泉は、貞観二年（八六〇）、慈覚大師が発見したといわれる古い湯で、いまも湯槽からは荒湯の噴湯が湯煙をあげています。

花崗岩を切る湯村断層に起因する温泉とされます。



湯村温泉



殿ダム



殿ダム

千代川流域の中心都市である鳥取市街地では、昔から何度も洪水による被害を受けており、その度に川の堤防を高くしたり、川の幅を広げたりする対策を講じてきました。また、雨不足の影響で日照りが続き、渇水被害にも幾度となく見舞われてきました。このような状況を受け、千代川・袋川の水を安全に流下させながら、増大する水利用に応えていくことを目的として殿ダムが完成しました。

昭和37年から鳥取県による予備調査に着手し、昭和43年に建設省(現・国土交通省)直轄事業として引き継いだ後、昭和60年に実施計画調査開始、平成3年に建設事業着手、平成12年からは本格的に付替道路工事に着手、平成19年にはダム本体工事に着手し、平成23年度に完成。

殿ダムはロックフィルダムとして高さ75m、総貯水容量12,400,000 m^3 、有効貯水容量11,200,000 m^3 で洪水調節、工業用水の供給水道水の安定供給、河川環境の保全、・水力発電の4つを目的としています。



流域の自然



4. 水の流れと自然メッセージ

流域の自然

〔菅野ミズゴケ湿原〕

標高400mにある高層湿原と周辺の山林からなるこの湿原には、オオミズゴケを中心に食虫植物のモウセンゴケ、カキツバタなどの湿原植物が群生しています。

なかでも、毎年5月から6月頃にカキツバタが深紫色の美しい花を咲かせ、日本海側の代表的湿原として昭和52年に県の天然記念物に指定されました。

〔キマダラルリツバメチョウ生息地〕

キマダラルリツバメチョウは、シジミチョウの一種で、羽根を広げた大きさは2cm前後になります。羽根の表面は黒または暗紫色で、裏面には黒と黄色のまだらの縞模様があります。幼虫期はアカマツの樹皮の下でアリとともに過ごし、さなぎになるとアリの巣の中で過ごすといわれ、飛び方に特徴があります。日本の固有種ですが、数が少なく生息地も限られているため国の天然記念物に指定され、鳥取市東町の長田神社、栗谷町の興禅寺、上町の樗谿公園の一带が生息地として特別保護地区に指定されています。



5. 地名の伝言



地名の持つ意味



5. 地名の伝言

地名の持つ意味

①地名「因幡」②地名「鳥取」③地名「国府」④地名「法美」⑤地名「邑美」

①地名「因幡（いなば）」

古くは「稻羽」と書かれ、『古事記』にも「稻羽の素(しろ)兔(うさぎ)」という記述が見られます。この国名は当時の政治の中心地、国府が置かれた法美郡稻羽郷に由来し、国の名を因幡と書くようになっても、郷名はそのまま残りました。

「いなば」の地名は稲葉・稲場・稲庭に由来するという説があります。稲葉は「稲の葉」、稲場は「刈り稲の寄せ場」、稲庭の庭は平坦地を指し「稲田」を意味し、いずれにしても稲作に関係する地名であると考えられています。

また、『因幡誌』では武内宿禰が下向の折、三韓遠征の幡をこの地に祀られた由緒によって国名の稲葉の字を因幡に改めたと伝え、『岩美郡史』では尺山の西南の狭間という所にある5畝歩ほどの半月形をした田地に稲葉大明神が初めて稲苗を植えた由来によりこの田地を古苗代と呼び、古苗代の地が稲葉の国名の起きた由緒の地であるとも伝え、因幡の国名の発祥の由緒を地名説話として伝えています。

②地名「鳥取」

地名の由来は、垂仁(すいにん)天皇の皇子本牟智和気御子(ほんむちわけみこ)のために設けられたという、水鳥を捕る朝廷の鳥取部が住んでいたことから伝えられています。

かつてはこの一帯が広い沼沢地であり、多くの水鳥が生息していたといわれています。



5. 地名の伝言

地名の持つ意味

③地名「国府」

奈良・平安・鎌倉時代に因幡国の国府が置かれた地であることに由来します。

④地名「法美（ほうみ）」

法美郡の郡名の由来については、「ほおうみ」にちなむとの説があり、北接する邑美郡に対し「秀邑美（ほおうみ）」の意からきたと伝えられています。また、『延喜式和名抄』では「波（は）不（ふ）美（み）」と書かれ、国府もこの中にありましたが、巨濃（この）郡（近世岩井郡）との境界が移動したり、『和名抄』の郷名が混乱した時期もあったようです。『拾芥抄』には「法味」とも書かれています。

⑤地名「邑美（おうみ）」

郡名の史料上の初見は神亀3年（726）の『山背国愛宕郡雲下里計帳』（正倉院文書）で「因幡国海郡」と見えます。海郡は邑美郡の異字で、『和名抄』では「於不美（おふみ）」と書かれています。後世に訛ってウハミと呼ばれ、池田家の初めの文書には上美（うはみ）郡と記されましたが、寛文年間に邑美に戻り、ウハミ、ムラミと読まれていました。邑美の北は大海（おおうみ）に接していることから、大海や、淡海、すなわち淡水湖に由来すると考えられており、鳥取砂丘のなかの多鯨ヶ池、または砂丘内側の千代川や袋川の下流域に形成されたラグーンに由来するものであるといわれています。



殿ダム周辺 集落の地名



①大茅地区の地名

・雨滝（あめだき）

雨滝集落には古くから著名な雨滝瀑布があります。よって『因幡民談記』や『因幡誌』にも、この滝の名をもって村名としたことが記載されています。『鳥取藩史』の中には旧名として「天瀧」と明記されています。

・楠城（なわしろ）

元禄時代（1688～1704）には「苗代」と書かれていましたが、10数年後の享保元年（1716）の『郷村高辻帳』には「楠城郡、古は苗代村」とあります。また、村にある2箇所（1）の城址はいずれも楠氏のものであり、多くの墓石もまた楠氏のものであるという伝説が残されていることから、村名がかわった経緯として、米の収穫高から「苗代」という名が生まれ、楠氏ゆかりの地であることから「楠城」へ改名したのではないかと考えられています。

・拾石（じっこく）

戦国期には「十黒」と書かれていたようですが、江戸時代の郷村帳高等にはいずれも「拾石」と表記されています。どうして「十黒」から「拾石」になったのか理由は明らかではありませんが、村には、川向こうに豆の木があり、一本から十石とれたので十石村というようになったという童話めいた話が伝承されており、収穫の多さなどに由来するのではなかといわれています。



②成器地区の地名

・成器（せいき）

明治28年に組合立小学校の校名は、中国の古典『礼記(らいき)』王制編の「錦文珠玉は成器にして市に粥(ひさ)がず」を引用して命名されました。成器とは“素晴らしき『うつわ』”の意です。村名はその成器尋常小学校から引用されました。

・上地（わじ）

標高1310mの扇ノ山登山口にあたる高原の村は地域の上であることから「上(うえ)の地(ち)」、これが「うえち」になり、音の変化や省略によって、「うわぢ」さらに「わぢ」「わじ」になったとする説や、新田村として下上地が誕生して上地鉱山の採掘も行われていたことから、近隣の山間部に比べて肥沃な土地であることを表し、「上等な土地」から上地の村名が生まれたとする説などがあります。

・荒舟（あらふね）

上荒舟にある上荒舟神社の『子守神社縁起』には、小肢谷にある盤根(いわね)（または普根(ふね)）の国）は修祓の地とされ、未開の荒れた普根の里から「荒舟根」、「荒舟」へ転じたと載せられています。その他にも、この地方に古くからある水葬の習わしから「荒霊(あらたま)葬送の地」が語られるようになったとする説や、「荒畝」の転化で「あらうね」から「あらふね」へとする説、山の形が舟の形に似ているからという説などがあります。

・山崎（やまさき）

地域のはずれで上地川と雨滝川が合流しているところから、この両川に挟まれた山の先端にある村なので「山崎」というようになったといわれています。また、『岩美郡史』によれば大江広元が荒舟に来て城を構えた折に、ここを山崎と名づけたとも伝えられています。



5. 地名の伝言

殿ダム周辺 集落の地名

・神護（かんご）

『因幡誌』に、神護という村名はこの地において大茅郷を領地した松島神護兵衛からとったという説は間違いであり、最初から神護という地名があったので松島氏はその地名をとって神護兵衛としたと書かれています。

『因伯地名考』には、かつてはこのあたり一帯を大草（おおかやの）郷（さと）いい、郷の大半は菅野大明神の社領だったことから、社領に生活する人民、つまり「神戸」が「じんご」になり「かんご」に変わったのではないかとあり、神社に仕える女性、すなわち「神子」が「かんご」と読まれたことからとも考えられています。

・殿（との）

「殿」という村名は全国的に例が多く、鳥取県内でも気高町と船岡町に同名の村があり、いずれも山崎城に伴う領主や長老の屋敷後等にちなんでいるようです。

この地も村の前に雨滝川が流れ、その上に毛利氏が籠もった山崎城跡がそびえています。元禄地図には今の山崎橋は200mほど上流にあり、ちょうど城跡の中央直下のあたりに架けられ、村に毛利の重臣たちの屋敷が並んでいたことから自然とこの名が付いたのではないかと考えられています。



6. 因幡万葉の里の歴史と暮らし



袋川流域 六古墳・墳墓、一古墳群



6. 因幡万葉の里の歴史と暮らし

袋川流域 六古墳・墳墓、一古墳群

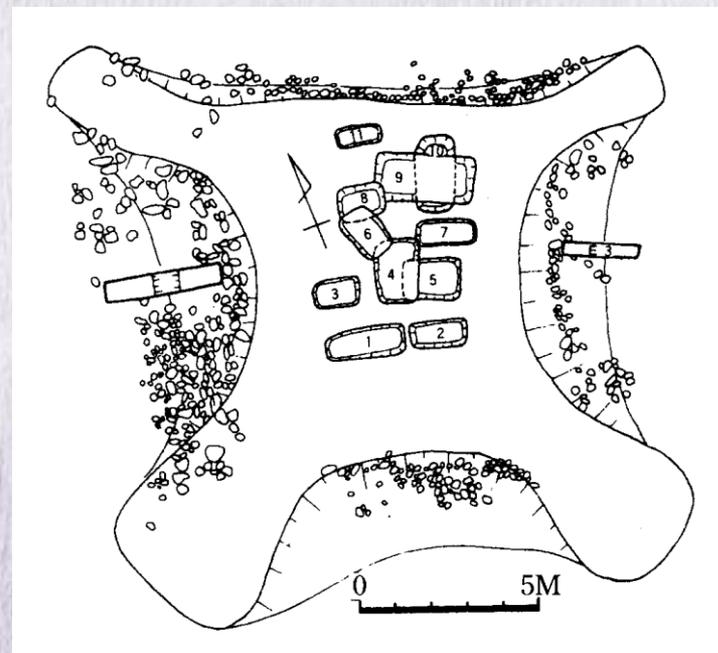
- ①二位の尼の伝説〈新井の石舟古墳〉
- ②糸谷1号墓
- ③梶山古墳
- ④神垣古墳
- ⑤鷺山古墳
- ⑥姫塚古墳

①二位の尼の伝説〈新井の石舟古墳〉

安徳天皇の祖母、二位の尼が亡くなり、泉が谷の石舟に葬られました。二位の尼の墓所があるところからこの地を“二位”と読んでいましたが、後に“新井”と改められました。

②糸谷1号墓

糸谷集落西側の字山ヶ鼻に、ほぼ南に向かって舌状に延びた、比高20m余の小丘陵があり、そこに一二基の古墳が築造されています。国府町最古の古墳群、糸谷古墳群で糸谷一号墳は、当古墳群にあって最古の位置にある古墳です。



6. 因幡万葉の里の歴史と暮らし

袋川流域 六古墳・墳墓、一古墳群

③ 梶山古墳

梶山古墳は7世紀頃築造されたとする日本最古の方形壇を持つ変形八角形古墳で、魚をモチーフとした石室内の彩色壁画は全国的にも珍しく、中国地方では奈良の高松塚古墳に次ぐものとして高い評価を受けています。



④ 神垣古墳

盛土はほとんど流出しており、おまけに埋葬施設の横穴式石室部もなくなっています。

⑤ 鷺山古墳

県指定で線刻壁画では代表的な古墳である。

⑥ 姫塚古墳

美敷集落の東側丘陵の西斜面にある。周辺は江戸時代から墓地となっています。



宮下古墳群



稲葉山から南へ山脚が延びる尾根には、50基ほどの古墳が確認されており、宮下古墳群と呼ばれています。

大半は直径10mから20mぐらいの円墳ですが、中には全長39mもある前方後円墳の大平（おおなる）1号墳や直径40mの大円墳の宮下24号墳などもあります。

ほとんどが6世紀から7世紀ごろの古墳時代後期の古墳で、横穴式石室を埋葬施設としており、19・20・22号墳の横穴式石室には、木の葉・舟・鳥などの線刻の壁画が描かれています。



岡益の石堂とエンタシス



6. 因幡万葉の里の歴史と暮らし

岡益の石堂とエンタシス

御陵山の麓には6m四方の基壇の上に厚さ40cmの壁石で囲まれた石室があり、石室中央の柱礎の上にエンタシス方式の円柱が立てられ、中台の裏の忍冬文(パルメット)の浮き彫りにされ大陸伝来説が強調された、山陰最古の7世紀後半の建造物である「岡益の石堂」があります。

また安徳天皇御陵参考地としての指定を受けています。当初の石堂は寛文2年(1662)の大地震で倒壊し、現在のものは近代の復元です。



鳥取城



鳥取城

中世の山城です。山名、吉川の城として戦国から近世まで因幡の中心となりました。自然の急峻な地形を要害として利用した名城です。



(築城)

天文14年（1545）に因幡守護の山名誠通（まさみち）が、天神山城の出城として久松山山頂部に築城したのが始まりといわれています。当時、誠通は同族の但馬守護山名祐豊（すけとよ）と争い、その来攻を防ぐためにこの城を築き守りを固めました。城が完成して3年後の天文17年（1548）、祐豊の攻撃を受けて天神山城は落城し、誠通も乱戦のなかに陣没しました。

(久松山)

鳥取市街地の東北にそびえる山で、山上に鳥取城があったため「城山」とも呼ばれている標高263mの山です。全山深成岩である花崗岩からなり、山勢は急ですが高さはほどよくハイキングなどの好適地となっています。

頂上には鳥取城の“詰の城”、すなわち本丸の天守閣跡・月見櫓の跡や古井戸などが残っており、山頂をやや降った辺りには門の跡・枡形なども見ることができます。



上地の棚田



上地の棚田

県内でも標高の高いところにある上地地区の棚田では、近年、農業従事者の減少に伴い田畑と用水路の維持が困難になり、耕作放棄地が増加していました。

そこでこの歴史的な用水路と棚田に対し、平成15年に有志によって「プロジェクト京ヶ原実行委員会」が立ち上げられました。

ボランティアと共に棚田と水路を保全に努め、酒米を栽培して新しい日本酒を特産品として作り上げて中山間地域の農村活性化につなげるといった取り組みが行われています。



河合谷高原の 四広場



6. 因幡万葉の里の歴史と暮らし

河合谷高原の 四広場

- ①水とのふれあい広場 ②海に見える広場 ③せせらぎ広場 ④峠の見晴らし広場

①水とのふれあい広場

標高1100mの河合谷高原の中ほどにあり、麓には雨滝、牧場近くには天神池、これより先は河合谷大根畑やブナ林などがあります。公園内の滝から流れる水は扇ノ山の伏流水で、四季を通じ水温と水量が変わることはありません。岩場の滝から流れ落ちた水をすぐ近くで触れることができ、東屋やベンチなどが整備された清涼感のある公園です。



③せせらぎ広場

袋川の上流、上地川の京ヶ原用水路取水堰の近く標高約700mの位置にあります。上地川は扇ノ山から流れでて袋川に注いでいます。大自然に囲まれて、涼風に吹かれつつ川のせせらぎを聞きながら過ごせる公園です。



[河合谷牧場]

小林牧場の最盛期は大正の中頃で、昭和になってわずかに余命を保っていたにすぎなかった。現在では河合谷高原の茅野原に土塁が長く残っているだけである。



雨滝街道と十王峠



雨滝街道と十王峠

- ①雨滝霊山開拓者の碑
- ②雨瀧番所
- ③雨滝集落の木地屋

①雨滝霊山開拓者の碑

明治20年ごろ、山本啓法という修験者がいて、参詣人の記念祈願をしたり、病気をなおしたりして、生き仏のように尊敬されていました。碑はその山本啓法の雨滝霊山開拓をかたえたものです。



②雨瀧番所

幕末になると各国の藩士や浪士の往来が激しくなったため、鳥取藩では文久3年4月に各要所に番所を置きました。雨瀧番所は雨瀧橋から十王峠に向かう間に置かれ、鳥取から十王峠と女峠（洗井村より蒲生峠まで）を越えて但馬に通じる要所に設けられました。

③雨滝集落の木地屋

因幡山地の木地屋は、その製品を鳥取に集め、船で近江の日野に送っていましたが、因幡民談記には「雨滝の奥に、木地山木地挽数十軒あり、家具を挽き城下へ出して、船で近江の日野に行くなり」とあります。



十王峠の三伝説



十王峠の三伝説

①冥府への入り口伝説

②ケイ東塚の哀話

③太閤の一口水

①冥府への入り口伝説

十王とはこの世でおかした罪を裁く、秦広(しんこう)王(不動明王)・初江(しょこう)王(釈迦如来)・宗帝(そうてい)王(文殊菩薩)・五官(ごかん)王(普賢菩薩)・閻魔(えんま)王(地蔵菩薩)・変成(へんじょう)王(弥勒菩薩)・泰山(たいざん)王(薬師如来)・平等(びょうどう)王(観音菩薩)・都市(とし)王(勢至菩薩)・五道転輪(ごどうてんりん)王(阿弥陀如来)の十人の王たちのことであり、この峠があつた世の入口と信じられていました。

②ケイ東塚の哀話

十王峠を越えて銀山村へ向かう道沿いに酒屋がありましたが、ある冬、雪が家を押しつぶして一家の人々は残らず圧死してしまいました。その主人に“ケイ東”と法名がつけられたので、弔われたこの塚を「ケイ東塚」と呼びました。

③太閤の一口水

銀山村より登って十王峠の峰の右、道ばたの平地に清水が湧き出ています。羽柴秀吉が城攻めのためにこの峠を越そうとした際、炎暑で武将達が喉を乾かしていたので、秀吉が鎗の石突きを地に突き通したところ、そこから水が湧き出しました。その後、銀山が繁昌の時にここに鉛座を建てたので、鉛座清水ともいわれました。



因幡八景



6. 因幡万葉の里の歴史と暮らし

因幡八景

因幡八景とは、因幡の地域を代表する八ヶ所の美しい景色です。中国湖南省にある名勝地・洞庭湖周辺の「瀟湘(しょうしょう)八景」に倣ったもので、湖山池を洞庭湖になぞってつくられたのではないのでしょうか。藩絵師沖家6代の沖探容が画を描き、鳥取藩士であり歌人である8人がそれぞれの情景に和歌を添えていると伝えられています。

- | | |
|--------|-------|
| ①湖山落雁 | ②丸山秋月 |
| ③妨己尾晩鐘 | ④賀露帰帆 |
| ⑤三嶋夜雨 | ⑥濱坂夕照 |
| ⑦松原晴嵐 | ⑧鷲峰暮雪 |

①湖山落雁
浦のはな おつる夕べの 秋風に入江の雁の
声ぞそひ行く
中島宜門（文化4～明治27）

②丸山秋月
まどかなる 月のひかりに霧はれて山のかひある
夜半の道かな
篠田惟成（不明～明治5）



③妨己尾晚鐘

かねのおとに 梅か香たくふ 夕風もまた春さむし つつらをの里

飯田秀雄（寛政3～安政6）加知弥神社宮司。国学者

④賀露帰帆

みなとえも ちかつく真帆の 追いかぜにさちつむ海士や 声きほふらむ

宮原 積（文政6～明治17）

⑤三嶋夜雨

なかれ江の ここはみしまの 影もなし竹の葉わりや 雨になりゆく

山杉大茂（寛政8～明治3）国学者

⑥濱坂夕照

青うな原 浪よりかけて まさこちに夕月かがやく 濱坂の里

加須屋武義（不明～慶応元）

⑦松原晴嵐

あらぼらけ 露なかるる 松はらに夜ハのあらしの ゆくへをぞみる

小谷古陰（文政4～明治15）国学者

⑧鷲峰暮雪

晴曇る いり日の影も 降る雪のそらにみたるる わしの山風

飯門年平（文政3～明治19）国学者



6. 因幡万葉の里の歴史と暮らし

因幡八景

①湖山落雁

のはな おつる夕べの 秋風に
入江の雁の 声こそひ行く

中島宣門（文化4〜明治27）



（資料提供：鳥取市歴史博物館）

②丸山秋月

まどかなる 月のひかりに 霧はれて
山のかひある 夜半の遠かな

篠田惟成（不明〜明治5）



（資料提供：鳥取市歴史博物館）

③防己尾晩鐘

かねのおとに 梅か香たくふ 夕風も
また香らむし つつらをの里

飯田英雄（寛政3〜安政6）
加知勢神社高司／国学者



（資料提供：鳥取市歴史博物館）

④賀露舳帆

みなとをも ちかつく真帆の 差いかぜに
さちつ七瀬士や 声まほふことし

宮原種（文政6〜明治17）



（資料提供：鳥取市歴史博物館）

6. 因幡万葉の里の歴史と暮らし

因幡八景

5 三輪夜雨

なかれ正の
竹の葉わりや 雨になりゆく

山杉大茂(寛政8〜明治3)国学者



(資料提供：鳥取市歴史博物館)

6 濱坂夕照

青うな原 浪よりかけて まさこちに
夕月かがやく 濱坂の里

加瀬屋世義(不明〜慶応元)



(資料提供：鳥取市歴史博物館)

7 小松原晴嵐

あらばらけ 露なかるる 松はらに
夜ハのあらしの ゆくへをぞみる

小谷古陸(文政4〜明治15)国学者



(資料提供：鳥取市歴史博物館)

8 鷺峰暮雪

晴暮る いろ日の影も 暮る雪の
さらにみたるる わしの山嵐

飯門年平(文政3〜明治19)国学者



(資料提供：鳥取市歴史博物館)

殿ダムを囲む 二自然公園



殿ダムを囲む 二自然公園

①山陰海岸国立公園

②氷ノ山・後山・郡岐山国定公園

①山陰海岸国立公園

〔指定昭和三八年七月一五日〕 東は京都府竹野郡網野町から兵庫輿を経て、西は鳥取市浜坂砂丘の千代川河口まで、全長77kmにも及ぶ細長い区域が、山陰海岸国立公園です。

トンネルの多い山陰線の車窓から見え隠れする海岸風景は、それほど大きな変化はないが、いたるところに岬が海中に突き出し、あるいは入江となり、澄明な海のなかにマツに覆われた美しい小島が散在しています。

また、海食によってできた珍しい形の岩が怒濤に洗われ、奇怪な形に削られた洞門がつづいて、自然の造形の妙を見せています。

②氷ノ山・後山・郡岐山国定公園

〔指定 昭和44年4月10日〕

この公園は氷ノ山（1、510メートル）を主峰に1、000～1、300メートルの山々からなる山岳公園で鳥取、兵庫、岡山の三県にまたがっています。

この公園にはブナの原始林をはじめ、コケモモ、ツガザクラ、等の高山植物が分布し、また、ツキノワグマ、サル、イヌワシ等の動物が生息しています。



[鳥取港（賀露港）]

港付近には石器時代の遺跡が多く、辺り一帯はかなり早くからひらけていたと考えられています。

孝謙天皇の天平勝宝六年（754）、吉備真備が唐から帰朝の折り難破して、賀露の沖の小島に漂着したという話も伝わっており、古代先住民族時代から港としての概能をもち、朝鮮・隠岐・但馬・出書方面との交通の要路にあたっていたとみられています。

経済的発展をみたのは、鳥取の城下町が完成したころからで、その外港として大いに利用されることになり藩政時代には藩の御番所が置かれ、貿易港として繁栄しました。

しかし、港は砂浜によってつくられていたので、風波や洪水などでしばしば形や港口の位置を変えていました。

近代的な港湾としての形が整えられたのは明治22年ごろのことで、西浜から磯島にいたる約100mに防波堤が築造され、その後東浜の突端にも防波堤が築かれました。

また、大正13年には東浜防波現を延長し、さらに昭和四年、西防波堤の補強改修工事が施されて、やっと港口が定まりました。

しかし、千代川の河口港であるため、流砂堆積の進度が早く、港内・港口がたびたび災害を受けることから、昭和四九年、建設省のもとで港湾整備が計画され、河口を変更して川と港を分離する工事が行われました。



鳥取を学べる 四博物館



6. 因幡万葉の里の歴史と暮らし

鳥取を学べる 四博物館

- ① 因幡万葉歴史館
- ② 鳥取県立博物館
- ③ 鳥取砂丘こどもの国
- ④ 鳥取市立歴史博物館

① 因幡万葉歴史館

因幡に華開いた万葉・王朝文化や、因幡地方に伝わる「麒麟獅子舞」・「因幡の傘踊り」が一堂に集い、コンピュータ・ハイビジョンを駆使した、新しいタイプの館として平成六年オープン。

万葉貴族の庭園を摸した池水や、四季の万葉植物を回遊できる庭園。高さ30mの展望塔からは、因幡の原風景が広がります。

② 鳥取県立博物館

昭和四七年に西日本一の規模をもつ総合博物館として開設されました。県に関係の深い考古・民俗・美術・史料や、旧県立科学博物館が20年余りにわたって収集した地学・生物学の自然科学資料を常時展示しています。

山陰海岸ジオパークに関連する資料では、鳥取砂丘に関する資料や、鳥取市国府町宮下の魚類化石をはじめとする鳥取層群の化石を展示。鳥取県の地形・地質についても模型を使用してわかりやすく解説されています。鳥取県の天然記念物に指定されている「扇ノ山の火山弾」は、扇ノ山が火山活動をしていた約200万年前頃、噴火によって溶岩の破片が空気中に放出され紡錘形になったもの。このような大きな火山弾（長さ105cm・重さ336kg）は大変珍しいものです。



③鳥取砂丘こどもの国

鳥取砂丘を歴史・自然科学両面から解説する自然科学館をはじめ、児童館・砂丘館・レストラン・あそびシェルター・砂の工房・プラネタリウム・音楽堂などの施設が整っており、サイクリング道路もひらかれています。

④鳥取市立歴史博物館

鳥取市の樗谿公園内に平成12年7月1日オープンしました。子どもから大人まで、鳥取の歴史、風土について楽しく学べる体験型博物館です。鳥取城シアターではCGにより想定復元された鳥取城内を疑似散策できます。また、江戸時代後期の城下町・鳥取の状況をパネルや実物資料で紹介するだけでなくコンピュータでも検索できるようになっており、当時の人々の暮らしの様子を身近に感じることができます。



三研究施設



三研究施設

- ①鳥取県埋蔵文化財センター
- ②砂丘研究所
- ③国立大学法人鳥取大学乾燥地研究センター

- ①鳥取県埋蔵文化財センター
- ②砂丘研究所
- ③国立大学法人鳥取大学乾燥地研究センター

世界の乾燥地研究ネットワークの中核的役割を担う研究施設。アリドドームは、複数の研究者が自由に動き回れる規模の大型人工環境制御施設であり、世界各地の乾燥地の現地情報に基づいてシミュレーション実験を行うことができます。



鳥取砂丘 四情報館



6. 因幡万葉の里の歴史と暮らし

鳥取砂丘 三情報館

- ①鳥取砂丘情報館「サンドパルとっとり」
- ②鳥取砂丘パークインフォメーション
- ③鳥取砂丘ジオパークセンター
- ④鳥取県立とっとり賀露かにっこ館

①鳥取砂丘情報館 「サンドパルとっとり」

鳥取砂丘の情報拠点施設。鳥取砂丘の紹介や説明の他、観光案内、インターネットコーナーも完備。雄大な砂丘をテーマにした日本画家「松尾多英」の26枚連作「砂」を常設展示。

②鳥取砂丘パークインフォメーション

鳥取砂丘市営駐車場に平成13年の春オープンした施設で、普段知ることのない砂丘の様々な情報を展示している他、砂丘を歩いた足を洗う「足洗い場」やコインロッカーが設置されています。

③鳥取砂丘ジオパークセンター

2010年春開設。鳥取砂丘の砂や植物などをわかりやすく展示・紹介する施設。砂丘の風景や魅力を撮影したハイビジョン映像も楽しめる。風紋発生風洞実験も行っています。

④鳥取県立とっとり賀露かにっこ館

海の生き物に直接さわることができる水槽をはじめ、「松葉がに」や世界一大きくなる「タカアシガニ」など多くの生き物が間近に見られる、カニが主役の小さな水族館です。



[上山高原エコミュージアム・上山高原ふるさと館]

上山高原エコミュージアムでは、地域の様々な有形無形の資源を地域の人々が中心となり、活かしながら保全する取り組みを行っています。上山高原と麓の八田集落にみる環境と共生した暮らしの知恵を学び、実践する場をつくるために、地域住民はじめ、個人・団体・NPO・事業者・行政など多様な主体が参画、協働しています。

2006年7月にオープンした上山高原ふるさと館は、この上山高原エコミュージアムの活動拠点として、上山高原周辺地域の自然や生物を紹介したり、地域の歴史・文化に関する資料展示などを行っています。また、自然観察会や地域の案内を発信し、上山高原周辺をフィールドに山歩きをする人たちをサポートしています。

[おもしろ昆虫化石館]

古代がよみがえる！国内有数の化石産出地・新温泉町に、全国初の昆虫化石博物館があります。照来層群で産出された珍しい昆虫・植物化石を始め、地球の歴史を学習できる施設です。化石解説パネル、化石地層レプリカファンタビュー（立体映像）、採集の仕方パネル、採集道具展示・実物展示、採集テーブルなどがあり、子どもでも分かりやすい内容です。



鳥取・砂丘の二食



鳥取・砂丘の二食

①二十世紀梨

②砂丘らっきょう

①二十世紀梨

生産量日本一を誇り、鳥取県を代表する味覚の二十世紀梨。果汁たっぷりでみずみずしく、さっぱりとしてさわやかな甘みが魅力で、8月～9月のシーズンにはもぎたてが味わえる梨狩り園が賑わいます。



②砂丘らっきょう

鳥取砂丘の砂地をいかし栽培される砂丘らっきょうは、色白で姿形が美しく、肉質はしまりシャリシャリと歯ざわりも楽しめます。一日4粒食べることで、血液サラサラ効果があると紹介され、その健康効果にも注目が集まっています。

